

状語中心語統合型の統合意義特徴

—形容詞と動詞の組み合わせを対象として—

大滝幸子

- 1 はじめに
- 2 調査資料の作成
 2. 1 前稿で扱った調査資料の位置づけ
 2. 2 基礎資料Ⅱの統計的処理と【パターン表ⅡA・B】の作成
 2. 3 【パターン表ⅡA】と【パターン表ⅡB】
- 3 統合型意味分析のための理論的準備
 3. 1 中国語の状語の種類－FM状語7種・M状語3種
 3. 2 時空・形状を表す形容詞の特殊性－FM状語1) 2) について
 3. 3 中国語の「格」の種類と「現象枠」－FM状語3) 4) について
 3. 4 「第二次格」が動詞・形容詞に対して加える詳述
 3. 5 4段階の文法レベルと文法術語の整理－FM状語5) について
- 4 VA型からA地V型への変換可能性を通しての統合型意味分析
 4. 1 典型VAと可能補語
 4. 2 感情形容詞とVA型－【パターン表Ⅲ】の作成
 4. 3 同一の形容詞と組合わさる動詞の違いとA地V型への変換可能性
－【パターン表ⅡA】から【VA型分類表】の作成
 4. 4 A地V型○・V得A型×の変換パターン総論
 4. 5 【VA型分類表】の用例の検討(1)－V好
 4. 6 【VA型分類表】の用例の検討(2)－V弊
 4. 7 【VA型分類表】の用例の検討(3)－V乱

4. 8 【VA型分類表】の用例の検討(4) - V満
4. 9 A地V型×・V得A型○の変換パターン
- 【VA型分類表】のVA型①とVA型②の比較
- 5 感覚感情形容詞におけるA地V型○・V得A型×の変換パターン
- 【パターン表Ⅲ】の用例の検討
- 6 VA型へ変換できないA地V型・V得A型を通しての統合型意味分析
- 【パターン表ⅡB】の用例の検討
6. 1 人間を形容する形容詞とA地V型
6. 2 抽象的派生的意味または程度を形容する形容詞とA地V型
- 7 おわりに

1 はじめに

筆者は「述語補語統合型の統合意義特徴 - 動詞と形容詞との組み合わせを対象として」東洋文化研究所紀要第128冊1995年11月(以下、前稿と呼ぶ)において、中国語の動詞(V)と形容詞(A)とが構成する次の三種類の統合型のうち、述語補語統合型二種類(IⅡ)の統合意義特徴について検討を加えた。

I, 述語結果補語統合型(以下, VA型と略す)

Ⅱ, 述語様態補語統合型(以下, V得A型と略す)

Ⅲ, 状語中心語統合型(以下, A地V型と略す)

本稿は前稿の資料と分析手順とを踏襲して、Ⅲの「状語中心語統合型」の統合意義特徴を明らかにしようとするものである。状語とは日本語の連用修飾語にほぼ相当する文法成分であり、中心語とは被修飾語に相当する文法成分であるが、他のIⅡの名称が日本語文法には存在しないことから、名称の整合性を謀るために中国語での呼称をそのまま用いた。

中国語の状語は日本語の連用修飾語の典型である副詞が大きく、〈様態副詞・程度副詞・陳述副詞〉の三種類に分けられて考察されているのと同様、副詞

を通常七種類に分類するほど、複雑な構成要素を持つ。ただし、本稿で考察対象とする形式は、「形容詞（A）（+構造助詞“地”）+動詞（V）」という統合型であり、日本語の「形容詞的名詞+“に”（or 形容動詞連用形）+動詞」「形容詞連用形+動詞」と同様、様態を表すことを旨とする形式である。

中国語の形容詞の特殊性と他の統合型ⅠⅡとの役割分担とが加味されて、日本語文法にはない、いくつかの統合意義特徴がみいだされるものと予想される。

2 調査資料の作成

2. 1 前稿で扱った調査資料の位置づけ

まず、前稿において用いた資料を本稿でどう位置づけるかを述べる。

1)「基礎資料Ⅰ」は、北京語言学院出版社1987《汉语动词-结果补语搭配词典》の項目の中から、形容詞が結果補語に使われていると見なせるVA型の用例を取り出し、各々V得A型、A地V型への変換ができるかどうかについて3人のインフォーマントを対象にインフォーマント調査を行ったものである。前号に掲載したものはその自省報告を比較再検討した結果を一覧表にした【パターン表】（本稿ではこれを【パターン表Ⅰ】と呼び替える）であるが、本稿でもしばしばこれを参考にする。特に【パターン表Ⅰ】の中のM3項は、VA型がA地V型に変換できるかできないかに関するデータであり、状語中心語統合型に関する基礎資料として、本稿ではじめて考察を加える。

2)「基礎資料Ⅱ」は基礎資料Ⅰで取り上げた形容詞について、安汝磐著1990《实用汉语形容词词典》中国标准出版社の用例の中から“作状语, 作补语”の項目に挙げられたものを取り出し、その形容詞と動詞の組み合わせが日常会話のなかで各々VA型・V得A型・A地V型に入れるかをインフォーマント調査したものである。前稿ではそのデータを採録しなかったが、本稿では【パターン表ⅡA・B】として整理する。

【パターン表ⅡA】

形容詞	動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	V A	V不	V得A型			A地V型		
			A型	A	A	很A	AA	A	很A	AA
			A	(不可 能)	A	很A	AA	A	很A	AA
暗	点	小卜进了屋，把原来点得暗 暗的煤油灯捻亮了。	◎	×	②	◎	●	×	△	◎
白	洗 胀	那姑娘爱干净，脸洗得白白的。 肚皮胀得饱饱的死猫，	◎ ◎	◎ ×	①② △	◎ ◎	● ●	×	×	×
彻底	做 睡	他要做就非得做得彻底不可。 他什么也没有梦见，他睡得 太沉了。	◎ ◎	◎ ◎	①● ①②	△ ●	* △	◎ ×	△ ×	* ◎
沉	阴	天阴得很沉。	○	×	×	●	◎	×	×	×
迟	睡	他同一般的老人不一样，睡 得迟，起得也不早。 清晨趁早凉，要早起，夜晚 怕热坑，要迟睡。	◎	×	●	◎	△	●地	○了	△
稠	研	为了写清楚，墨要研得稠。	◎	◎	①●	◎	◎	×	△	◎
粗	☆ 纺	毛线纺得粗，时常出现疙瘩。 (質がよくない)	◎	×	①●	◎	太さ	×	△	雑
端正	☆ 摆	老差人一手……，一手…… 好叫她摆得更端正。	◎	◎	①②	●	◎	◎	◎	◎
端正	☆ 站	高忠垂着双手端正地站着，…。 (原文は“立”)	○	○	①②	◎	◎	●	◎	◎
复杂	想	事情应该想得复杂一点。	◎	×	●	◎	*	○	△	*
干净	忘	恐怕就属你忘得干净呢。	◎	×	●	◎	◎	△	△	◎
高兴	☆ 谈	我们正谈得高兴，警报的气 笛声又响了起来。	◎	○	●	◎	◎	◎	◎	◎
高兴	☆ 听	听得高兴了，就跟大家一块 儿笑笑。	◎	○	●	◎	◎	◎	◎	◎
厚	积	雪花落在积得厚厚的雪褥上面， ……。	◎	×	②	◎	●	×	×	×
厚	造	墙壁都造得特别厚。	◎	×	②	●	◎	×	△	△

状語中心語統合型の統合意義特徴

形容詞	動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	V A	V 不	V 得 A 型			A 地 V 型		
			A 型	A	A	很 A	A A	A	很 A	A A
			A	(不可 能)	A	很 A	A A	A	很 A	A A
紧紧	☆ 闭	他把嘴闭得紧紧的。	◎	◎	①②	◎	●	◎	◎	◎
	☆ 贴	他拼命地追她，象块狗皮膏药，贴得紧紧的。	◎	◎	①②	◎	●	×	◎	◎
紧紧	☆ 抓	张书记工作抓得很紧。	◎	◎	①②	●	◎	×	△	◎
	☆ 催	有时候活儿催得紧，她一直要做到半夜。	○	×	●	◎	×	×	△	×
紧	☆ 管	对你管得紧一点儿，有什么不好。	○	◎	●	◎	◎	×	△	◎
紧凑	配合	乐队人数不多，配合得十分紧凑。	◎	◎	①②	●	×	◎	◎	×
紧凑	长	这个人的五官长得很紧凑。	◎	×	②	●	×	×	×	×
苦	☆ 想	“我想你想得好苦”文化子哭了。	○	×	②	●	△	×	×	◎
宽宽	走	眼睛看得开，路子就走得宽。	◎	×	●	◎	×	×	×	×
	管	管事管得宽，不穿草鞋，又碍啥事？	◎	×	●	◎	×	×	×	×
宽	放	你心放宽点，睡上美美的一觉，……。	●	◎	①②	◎	○	×	×	×
宽宽	放	在一定的条件下，政策放宽了。	●	×	②	◎	△	×	×	×
	处理	组织上处理得倒很宽，留党查看。	◎	×	②	●	×	×	×	×
猛	☆ 冲	他率领突击队冲锋时，冲得过猛，竟一下子冲到…	◎	×	②	●	*	○	○	*
迷糊	☆ 绕	这地方胡同太多，把我绕迷糊了。	●	○	①②	◎	◎	×	×	○
迷糊	☆ 累	她累得迷迷糊糊的，一合眼就睡觉了。	◎	×	②	◎	●	×	×	×
齐齐	出	小苗出得这样齐，管得真不错。	◎	◎	①②	●	×	×	×	×
	喊	“明白呀！老师！”学生又齐喊了一声。	◎	◎	①②	◎	◎	●地	◎	○
齐全	站	大家站齐了。	●	◎	①②	◎	◎	×	◎	◎
	发	饼干咸盐炒面都发齐全，…… (ワンセットで配る)	●	◎	①②	◎	×	×	×	×

形容詞	動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	V A	V不	V得A型			A地V型		
			A	(不可 能)	A	很A	AA	A	很A	AA
清醒	放	你想往绝路上走呀！放清醒点！	●	×	②	×	×	×	×	×
少	来往	平常他们很少来往。	◎	×	②	◎	×	×	●地	×
	给	你放心吧，不少给你。	◎	×	②	◎	◎	◎	●地	◎
	写	这一阵儿，信写得少。	◎	×	●	◎	×	×	△	△
痛快	玩儿	要是他在家，两个孩子玩都玩不痛快。	◎	●	①②	◎	◎△	◎	◎	◎
完全	听	觉慧在外面注意地倾听，也不能够听完全。	●	×	×	△	◎	×	△	◎
细	说 打听	这事不必细说了。	○	△	②	◎	×	●地	○	○
		李四妈似乎知道有什么危险，可是始终也没细打听	○	×	②	◎	×	●地	◎	◎
	观察 擀	你观察得真细。	○	◎	②	●	◎	×	◎	◎
		面条擀得细。	◎	◎	①●	◎	◎	×	△	◎
	碾	你要把米碾细一点。	●	◎	①②	◎	◎	×	◎	◎
细致☆ 刻	我用不着象绘工笔画那样细致地刻画。	○	×	②	◎	*	●	◎	*	
严	说	我们这套办法说严嘛，严得不得了。	●	×	②	×	×	×	×	×
严	查	你查得不严，就让他钻了空子。	◎	◎	②	×	×	×	△	×
远 匀称	传 长	夜深人静，声音传得远。	◎	◎	●②	◎	◎	×	×	×
		他大约二十五岁，长得很匀称。	◎	×	②	△	△	×	×	×
重 仔细☆	敲 听	这次敲得重了些，声音也揭高了。	◎	×	●	◎	×	×	○	◎
		瑞宣试探着慢慢地说，白巡长听得仔细。	◎	×	●	◎	◎	◎	◎	◎

【パターン表ⅡB】

形容詞	動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	V A	V 不	V 得 A 型			A 地 V 型		
			A 型	A	(不可 能)	A	很 A	A A	A	很 A
笨 #	生	他虽说生得笨，心眼事好的。	×	×	●	×	*	×	×	*
笨 #	割	……桶掉进井里也匀不起来， 割猪菜割得多笨！	×	×	②	●	*	×	○	*
惨	死	他死得好惨哪！	×	×	②	●	*	×	◎	*
差	落实	中央的知识分子政策，你们 落实得也太差了。	×	×	②	●	*	×	×	*
长	吐	她长长地吐了一口气。	×	×	△	◎	◎	×	○	●
彻底	粉碎	我们边区军民彻底粉碎了敌 人围困的阴谋。	×	×	×	×	×	●	△	×
充分	流露	佛教的消极思想在他的散文 作品里流露得很充分。	×	○	②	●	*	◎	◎	*
充分	睡	倪焕之是好几天没有充分地 睡一觉，……。	△	△	②	◎	*	●	◎	*
聪明 #	打趣	“噢，噢！你倒有计画！…” 他聪明地打趣，…	×	×	×	×	*	●	◎	*
聪明 #	微笑	他比平时更好，…时常很聪 明地微笑，也从不胡闹	×	×	×	×	*	◎	●	*
聪明 #	生	他生得聪明，又能刻苦，凡 事都得问个究竟。	×	×	●	×	*	×	×	*
聪明 #	说	好角色，真懂事，这话说得 多聪明。	×	×	②	●	*	◎	◎	*
粗 ☆	看	粗看发现不了问题。	×	×	②	○	×	●地	△	◎
粗 ☆	布置	粗粗布好以后，黄因明就告 诉梅女士，……。	×	×	②	◎	×	×	○	●
端正 ☆	生	她的同胞兄弟觉英……，相 貌也生得端正。	×	×	●	◎	◎	×	×	×
端正 ☆	敬礼	罗小葆端正地敬了个礼。	×	×	×	×	×	●	◎	◎
高	喊	他……情不自禁地高喊起来。	×	○	②	○	×	●	○	×
高兴 ☆	笑	领导同志点点头，高兴地笑 了。	×	×	②	◎	△	●	○	◎
光	洗	脸洗得光光的。	×	×	②	○	●	×	×	×

形容詞	動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	V A	V不	V得A型			A地V型		
			A	(不可 能)	A	很A	AA	A	很A	AA
寂寞	生活	……生活得很寂寞。	×	◎	②	●	*	◎	◎	*
寂寞	走	他……觉得没有趣味，一个人寂寞地走了。	×	×	②	◎	*	●	◎	*
尖锐	响	妇女小儿的声音响得特别尖锐。	×	×	×	●	*	×	×	*
紧 ☆	拥抱	战友们紧紧地拥抱李月久，激动地说：	×	×	×	◎	◎	×	△	●
紧 ☆	偎	小佳佳紧紧地偎在妈妈的怀里。	×	×	×	◎	◎	×	△	●
紧 ☆	下	雨点虽然小，下得可紧。	×	×	②	●	×	×	×	×
苦 ☆	追求	她们一代一代苦苦追求的，是祖国的伟大前程啊	×	×	×	○	×	×	×	●
猛 ☆	下	风比这还大，雨又下得猛，我不怕。	×	×	●	◎	*	×	×	*
迷糊 ☆	哼	妻在屋里拍着闰儿，迷迷糊糊地哼着眠歌。	×	×	×	×	○	×	×	●
淡 #	看	她紧闭嘴唇，… 淡淡地看了一眼那个无礼的妇女	×	×	×	◎	◎	×	×	×
甜 #	睡	白玉山睡得正甜。	×	×	×	●	×	×	×	●
旺	流	做成六个泉眼，水流得也很旺。	×	×	②	●	×	×	×	×
旺	长	野草长得旺。	△	△	①●	◎	×	×	×	×
细致 ☆	生	张振旺还很年青，眉眼生得细致。	×	×	●	◎	*	×	×	*
详细	知道	我也知道得不详细。	×	×	②	●	×	◎	◎	×
详细	告诉	明天我一定详细告诉你。	×	×	②	◎	◎	◎	◎	●
正	行	只要我们行得正，……人家就不能看轻咱们。	×	×	●	×	×	×	×	×
仔细	过	日子过得仔细。	×	×	●	◎	×	◎	◎	◎

2. 2 基礎資料Ⅱの統計的処理と【パターン表ⅡA・B】の作成

基礎資料Ⅱの“作状語, 作補語”用例を【パターン表ⅡA・B】として整理するために、次のような「用例を選択するルール」を定めた。

①【パターン表ⅡA】はV A型にはいる動詞と形容詞の組み合わせを扱ったものであり、【パターン表Ⅰ】を補足するデータとして用いることができる。

それに対して、【パターン表ⅡB】は、V A型に変換できないV得A型とA地V型を集めた表であり、【パターン表Ⅰ】との対応関係は存在しえない。

【パターン表Ⅰ】の変換4パターン(典型・M2・M3・M1)と【パターン表ⅡA】の対応関係は次のようになる。

V得A型		A地V型	V A型にはなっても、 V得A型へ変換しない
A・很A	AA	A・很A・AA	
典型	M2	M3	M1

②【パターン表Ⅰ】作成時に取り上げた形容詞と動詞の組み合わせ、つまり《汉语动词—结果补语搭配词典》の項目となっている組み合わせと同じ組み合わせの用例は除外する。

③【パターン表Ⅰ】で用例の存在が認められた変換パターン(典型, M1, M2, M3)が唯一種類だけであり、かつ基礎資料Ⅱ内の用例についての内省報告がそれと同一のパターンである場合は、形容詞と動詞の組み合わせが基礎資料Ⅰと異なっても、【パターン表ⅡA】には取り上げない。【パターン表Ⅰ】の用例数を単に増やしたけにとどまるからである。ただし、【パターン表Ⅰ】の用例が3個以下である場合は、検討対象とする用例を増やす意味でとりあげた。

④【パターン表Ⅰ】で同一の形容詞について変換パターンが複数に分かれた場合、基礎資料Ⅱの用例をすべて取り上げ、どのパターンに属するかを示し、変換パターンごとに組合わさる動詞がどのように異なるかを探るための便宜を

謀った。

2. 3 【パターン表ⅡA】と【パターン表ⅡB】(p4~p8) p61参照。

3 統合型意味分析のための理論的準備

前稿では、〈単語レベル〉〈統合型レベル〉〈叙述レベル〉〈陳述レベル〉という4段階の文法レベルを設定することにより、VA型の中の形容詞が表す比較表現の成立過程を〈陳述レベル〉を除いた3レベルにわけて考察した。

本稿では、状語となる形容詞が文中の他の成分と意味的にどう関わるかを考察するために、この4段階についての理論的な補充をおこなうとともに、状語をこの4段階にふりわけて、その多様性を整理する。後に個々の中国語形容詞の用法を分析するにあたって、ここでの考察結果を理論的了解事項として用いることにする。

3. 1 中国語の状語の種類—FM状語7種・M状語3種

まず中国語の状語について、大方の同意を得ている分類を示す論考として、
刘月华 1981 《状语的分类和多项状语的顺序》语法研究和探索(一)；

北京大学出版社

—1983 《实用现代汉语语法》第四章状语；外语教育与研究出版社

以上、2点を要約し、その中で形容詞が構成する状語の位置づけを確認する。

(注一)は本稿で補足したものである。著作の中の略称を以下、使用していく。

『状語は大きく、“限制性状語”【略称をFM状語とする】と“描写性状語”【略称をM状語とする】の2種類に分けられる。

FM状語はさらに7種に下位分類される。(“ ”内は代表例)

状語中心語統合型の統合意義特徴

- 1) 時間－時間詞・副詞・介詞フレーズ, “今天・马上・从～”
- 2) 場所：空間：路線：方向－場所詞・介詞フレーズ,
“地上・在～上”：“没着～”：“往～”
- 3) 対象－介詞フレーズ, “対～：給～”
- 4) 目的：根拠：共役者－介詞フレーズ, “为～：根据～：和～”
- 5) 否定肯定：程度：重複：範囲－副詞, “不：很：也：都”
- 6) 接続－副詞, “就・才”
- 7) 語気－副詞, “一定・也许”

(注－FM状語には形容詞フレーズが一つも含まれていないが、本稿ではいくつかの形容詞をFM状語1) 2) とみなす。－3.2, 参照)

M状語の方は何を描写するかによって3種に下位分類される。

- 1) 動作主の心理【略称をM1状語とする】－形容詞フレーズ・動詞フレーズ(離合詞, 有+抽象名詞 etc) 主述フレーズ・四字句,
- 2) 動作・変化の様態【略称をM2状語とする】－形容詞フレーズ・動詞フレーズ・四字句・数量詞フレーズ・擬声語・副詞(情態・頻度),
- 3) 動詞の目的語(注－用例を見る限り, 述語動詞が目的語となる名詞に求める「対象格」「生産物格」「当体格」の様態)【略称をM3状語とする】－形容詞重畳形, 四字句。“乱蓬蓬地长着芦苇” “一清二白地娶个老婆”

このうち, M1状語とM3状語は共通の文法的特徴を2つ持つ。①A地V型から, V得A型への変換ができる。②原則として構造助詞“地”を用いる。

M1状語とM2状語との文法的意義特徴を比較すると次の点で異なっている。①M2状語は, A地V型からV得A型へ変換できない。②M1状語は動作主を表した名詞(主語)を主語として述語になれる。(注－動詞の動作主であった名詞に, 形容詞の「経験者格」「描写対象格」を担わせることができる。)

形容詞のうち, M1状語, M2状語のおおのの例は次のとおり。

- 1) M1状語－高兴・美滋滋・很大方・十分自然・温和・激动・兴奋・愉

快・幸福・懶洋洋・顛微微 (M1 状語では文学的表現が多い)

- 2) M2 状語—高・快・大・横・竖・详细・彻底・仔細・剧烈・细致・积极・认真・刻苦・坚决・很快・非常热烈・长长・草草・慢慢・努力・

M1 M2 二種類の状語に兼属できるのは“认真・努力・坚决”ぐらいである』

この『M1 状語はA地V型から、V得A型へ変換でき、M2 状語は変換できない。』という見解については、本稿でも、「5 感覚感情形容詞におけるA地V型○・V得A型×の変換パターン」で詳しく考察することにする。

3. 2 時空・形状を表す形容詞の特殊性—FM状語1) 2) について

つぎに、以上合計10種類の刘月华的挙げた状語FM状語7種類とM状語3種類を4段階の文法レベルの中に位置づけていくことにする。

FM状語 1) 時間・2) 場所を表す形式は、主語になる名詞とも述語になる名詞とも意味的呼応関係を結ばない。つまり、格を担うことを要求しなければ、要求もされない。したがって、統合型レベルで統合意義特徴とともに分析するのではなく、叙述レベルで文の意義を構成する〈叙述時点〉〈叙述地点〉についての情報を提供する形式として捉える。

さらにまた、本稿では形容詞“早・晚”が状語として用いられた場合、FM状語1)に属するとみなし、“快・慢”が状語として用いられた場合は、FM状語1) 2)の中間に属するものとみなす。このグループは中国語における「時空を表す形容詞」であり、その文法的意義特徴を分析するには、時を表す形式との共起関係を調査する必要があるので、稿を改めて論じることにする。

3. 3 中国語の「格」の種類と「現象素」—FM状語3) 4) について

FM状語3)対象・4)目的・根拠・共役者を表す介詞構造の一部(“把”“跟”“給”など)は述語と呼応して統合型を構成すると考えられる。特に動作主格に複数の人間が求められる場合(共役者を必要としている)等がそうで

ある（跟他谈话）。動詞の弁別的意義特徴についての情報を提供するからである。

ただし、一般的には動詞の要求する通常の格に比べると「動詞の意味を完全に述べる為に必要とされる度合い」が一段低く、より具体的に個別的な表現をつくる形式といえる。これを「第二次格」と名づけることにする。（“対他说・跟他借～・替你高兴・为你担心” etc）。しかし、述べなくてもよいのにわざわざつけ加えるということで、「情報の焦点とされる度合い」は通常の格よりもむしろ高くなるものと考えられる。

その理由をあきらかにするために、①格の定義②格と現象素③格の種類と優先順位について順を追って述べていく。

①格の定義

意義素のなかに含まれる「他の形式によって表されることを前提とした弁別的意義特徴のグループ」を「格」と呼ぶ。格としてまとめられる弁別的意義特徴のグループは、①相当多数の動詞または形容詞の意義素に含まれる（普遍性の高い）語義的意義特徴、②格を担う他の形式が表示する現象素と動詞または形容詞が表示する現象素とを関係づけているところの論理的関係を表示する文法的意義特徴とからなる。格を担う形式は原則として単語であり、表層構造において動詞に前置されるか後置されるかが定まっています、形容詞では前置されることが定まっている。その定位置からはづれた位置に置いて使われる場合は、位置を移動させるという文法的操作が表す文法的意義特徴が文の意義に加えられる。

②格と現象素

それでは、中国語の動詞にはどんな格を認められるのだろうか？動詞に前置されることが定まっている「動作主格」「経験者格」を除いた、その他の格の種類（論理的関係の種類と言いかえられる）を賓語の意味的分類と同一視することは従来からもひろく行われてきたし、本稿もその立場を踏襲する。

李臨定 1990《現代汉语動詞》中國社會科學出版社，は動詞の賓語の意味を、どの介詞構造によって言い換えられるかを基準として分類している。この変換方式による意味分類は、述語賓語統合型が指示する現象枠のなかの事柄と、状況述語統合型が表示する現象枠のなかの事柄とが客観的に一致するという了解のもとで行われている。この方法の成立根拠は、「事柄の一致不一致を言語による論理的思考を極力排斥した感覚的な認知活動によって判断できる」というテーゼを認めることにある。そしてさらに、「異なる言語形式は、同一の事柄を異なる論理的思考によって把握する」ことを認めることにある。すると、この場合ならば、「異なる論理的思考を表す言語形式とは、異なる統合型」となるが、このテーゼはどういう学問的根拠をもって容認できるのであろうか？

山梨正明は、その著作『認知文法論』1995（ひつじ書房）でこう述べている。

『ここでは認知言語学の観点から、同意性ないしはパラフレーズに関係する意味を、状況レベルの意味と認知レベルの意味として明確に区別する。

A. <状況レベルの意味>

- (1) 記号化される以前の場面对応レベル
- (2) 外部世界を真理条件的に反映するレベル
(注－真理条件的意味とも名付けられている)

B. <認知レベルの意味>

- (1) 視点・パースペクティブ（注－見通し）を反映するレベル
(注－認知的意味とも名付けられている)
- (2) 言葉のコード化のモードにかかわるレベル

Aは、外部世界の状況の成立に関わる意味、Bは与えられた状況を主体が解釈し表現する際の視点ないしはモードを反映する意味として区別する。……Aの状況レベルの観点からはパラフレーズの関係にあるとされる言語表現も、Bの認知レベルからみた場合の解釈は厳密にはことなる。』(p6)

ここでの「真理条件」という概念は次のように使われている。

『「まだ半分ある!」「もう半分しかない!」の表現も、問題の酒の量に関する報告としてはいずれも真であり、したがって、ある状況が成立しているか否かに関する真理条件の観点からみるならば、これらの表現はパラフレーズの関係にあるといえる。』(p9)

また、「視点・パースペクティブ」の違いとして、①連続的認知 vs. 一括認知(→He fell. vs. He took a fall.) ②アナログ的認知 vs. デジタル的認知(→今日である子は二十歳。vs. 今日である子は十三・七つ。) ③前景(焦点が当てられている) vs. 背景(例→階段が玄関に接している。vs. 玄関が階段に接している。)(以上 p6-11)などをあげている。

「言語のコード化のモード」については短く引用することができかねるし、この論題は本稿のごとく、言語形式の差異から意味の差異を明らかにしようとする、いわばボトムアップ的論考に対し、人間の認知能力の言語における発現という山梨のトップダウン的論考とでは交差すれ違いの目だつ論題でもある。しかし、人間の「知の構造」を解明しようとする認知科学の隆盛によって蓄えられてきた多くの実験データは言語の意味の解明にも多くの示唆を与えるものと考えられる。本稿では認知科学が設定しつつある諸概念を援用することにする。そこで、援用するあたったの基本的条件を次のように定める。

意義素や意義特徴は社会の習慣として定められた言語形式によって表示されかつ「言語体系内での整合性」に拘束されるものと位置づけ、認知的意味として考察する。一方、現象素と現象枠は認知的意味が表示する真理条件的意味(背景としての「時間と空間などが構成する状況」を含む)として考察する。

③格の種類と優先順位

李臨定 1990 では本稿が統合型の統合意義特徴として解明しようとする上記の問題に関しては論及していないが、本稿ではその 10 種類の賓語分類を引用し、以下の格の種類に組み入れることにする。

【 】内は言い換えに用いる介詞, ()内は本稿で使う日本語訳である。

- 1) “受事賓語” 【把, 給】 (行為對象) 扣房租 采取積極態度
- 2) “對象賓語” 【對, 向, 跟】 (精神對象) 滿足現狀 邀請各方朋友
- 3) “處所賓語” 【在, 從, 到】 (場所) 逛頤和園 去天津
- 4) “結果賓語” 【把】 (生產物) 擦羅卜絲兒
- 5) “工具賓語” 【用】 (道具) 澆水
- 6) “目的賓語” 【為, 為了】 (行為目的) 逼債
- 7) “原因賓語” 【因, 為】 (行為原因, 精神原因) 養病, 後悔辭退了他
- 8) “方式賓語” 【按】 (行為類別) 寄掛號
- 9) “角色賓語” 【當】 (資格) 踢中鋒
- 10) “致使賓語” 【使】 (使役) 端正學習態度

本稿ではさらに介詞による変換形式をもたない、存現文の賓語を当体格（無意志のままかつ存在したは無意志のまま出現消滅する）として認める。さきに引用した刘月华 1983 ではこれを、出現存在消滅を表す賓語の種類としてカウントしているが特定の名称を与えていない。そこで存現文に関連した中国語の論文で多用されている“存現賓語”という名称を用いることにする。なお、日本語訳の「当体」という名称は、『基礎中国語』大修館書店(1970.)より借用した。

- 11) “存現賓語” (当体) 來人 掉泪

また、判断動詞“是, 象”などの賓語を中国語日本語ともに判断賓語としてとりあげる。

- 12) “判断賓語” (判断) 是學生 象爸爸

以上、中国語の動詞について12種類の後置格を認め、さらに前置格として「動作主」「経験者」を認め、これらを第一次格と名付けることにする。

また、形容詞の格については、第一次格すべてが前置格であり、大滝幸子 1992 『「人間を形容する形容詞の意義素記述」における日中対照研究』明海大学外国語学部論集第5集、では次の4つの格を認めた。

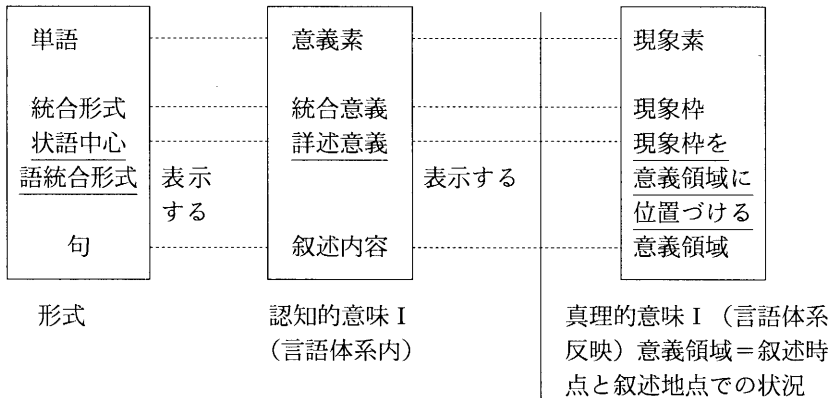
状語中心語統合型の統合意義特徴

- 1) 経験者格 感覚感情形容詞：その感覚感情を有する人格者
- 2) 判断（評価）対象格 判断（褒貶）形容詞：スケールをあてる対象
- 3) 描写対象格 状態形容詞：特徴をとりだす対象
- 4) 原因格 感情形容詞：感情をひきおこす事物

第二次格としては動詞・形容詞ともに介詞構造だけによって表現される意義特徴のグループが存在している。しかし第二次格のほうは、単語の意義素の中の欠損部分として、他の形式によって表されることが要求されているものではない。文を叙述するにあたって、第一人称者によって「何かを詳述するため」（「詳述」は本稿独自の用語）に述べられるものであり、その目的意識がFM状語とM状語の下位分類となって整理されたものと捉えることにしたい。

そこで、詳述するの営みに用いられる諸形式（介詞構造、状語中心語統合型）が表示する真理的意味をこれまで使ってきた現象素・現象枠とに對しどう位置づけるかについて、本稿の立場を図解しておくことにする。

【図1】 -----は指示機能を有するものとその指示対象の関係を示す。

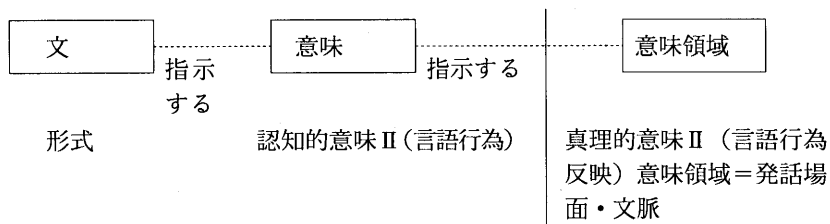


なお、形式が文レベルになった場合、認知的意味は「認知的意味II」となり
①発話時点における、叙述内容に対する話し手の判断・立場表面（真偽判断、

判断保留，是非保留，価値保留，拘束判断など）②発話時点における話し手の聞き手への伝達活動（その発話内での情報取り立て，つまり話題化・焦点化，先行発話との関連付け，つまり談話単位の構成，話し手としての態度表明，対人関係の構成つまり聞き手への働きかけ，など）が加わる。①は従来の国語学で「述定」②は「伝達」と呼び習わされてきた概念である。その下位分類は

中右実1994 認知意味論の原理（大修館書店）p53-71: SモダリティとDモダリティ：の論者が本稿の文法観に最も近く，参考になる。

また，真実の意味は「真実の意味Ⅱ」となり，発話時点における①発話地点での状況＝場面②文が連なった談話の意味＝文脈を指示する。



表示と指示との違いは，前者が原則として形式がその指示対象と1：1の対応を持つのにに対し，後者が発話場面・文脈の意味を組み入れるがゆえに，形式と指示対象の間には原則として1：複数の関係が生じる点にある。

この【図1】は，3. 5【表1】文法の4レベルと対照していただきたい。

3. 4 「第二次格」が動詞・形容詞に対して加える詳述

さて，おのおのの形容詞が状語として動詞の前に置かれた時，

- 1) その形容詞が判断褒貶・状態・感覚感情のうち，どの形容詞に属するか？
またそれらの第一次格のうち，どれをどの形式に拠って担わせるか？
- 2) 形容詞の格を担う形式が，述語となる動詞の格を担う形式（優先的に決定
ずみ）とどう重なりあうか？

3) 形容詞は動詞の相（平相・流相・異相）のどの部分を判断評価するのか？

M1・M2・M3 状語が表示する現象素と動詞が表す現象素との対応関係はどうなるのか？

を考察する必要が生じると予想される。第3)項については言語の体系の中でのみ分析を加えることは難しく、外界の現象素の事柄や出来事の中にある事物の相互関係に目をとめざるを得なくなる。そこでもう一度、単語と現象素、格関係を表示する統合型（形式）と現象素との関係について、認知文法論の概念を援用して考察を加えておく。

山梨正明は、その著作『認知文法論』1995（ひつじ書房）の「第4章、言語の経験的基盤とイメージスキーマ」と「第6章、イベントスキーマからみた事態認知と他動性」において、次のように述べている。

『われわれは、外部世界の対象に関し何らかのイメージをつくりあげ、このイメージを介して外部世界の対象を把握している。イメージは具体的な経験に基づいて形成される心的表象の一種である。われわれは、具体的な経験によって形成されたイメージを介して対象を把握しているだけでなく、状況によっては具体的なイメージを拡張し、この拡張されたイメージを介してより抽象的な対象を理解している。外部世界の把握を可能とする人間の認知能力の一部は、この種の表象能力によって支えられている。……しかし、人間の認知能力は、具体的なイメージだけに支えられているわけではない。われわれは、外部世界の対象にたいし、舞台的なイメージをつくり上げていくだけでなく、このイメージにかかわる具体的な知識を背景にして、さまざまなイメージスキーマ（i.e. イメージの図式）をつくり上げている。ここでは、イメージは、外部世界の具体的な表象レベルに位置づけられる概念とみなす。これにたいし、イメージスキーマは、具体的な表象レベルの知識としてのイメージを基盤にして形成されている、より一般的な認知枠としての上位概念として理解する。』（p95-96）

『認知言語学の新しい視点に基づく最近の研究では、このイメージスキーマ

の観点からみた、言葉の形式と意味の研究が進められている。イメージスキーマは、日常言語の形式・構造から意味にわたる言語表現の拡張のプロセスと言葉の創造的側面を考察していく際に重要な役割をになう。イメージスキーマそれ事態は、言葉の形式と概念構造の形成に先行する認知図式の一つであり、言語現象それ事態のなかにこの種の図式が直接的に認められるわけではない。また、どのようなスキーマが存在するかに関する先験的な基準が存在するわけではない。言語学の分野においてイメージスキーマを問題にする場合には、あくまで日常言語の形式と意味を特徴づける認知のメカニズムとの関連で経験的に提起される。言語学の分野で提起されてきているイメージスキーマの典型例としては、〈容器〉のスキーマ、〈上・下〉のスキーマ、〈前・後〉のスキーマ、〈部分・全体〉のスキーマ、〈中心・周辺〉のスキーマ等が考えられる。』(p97)

『外部世界の事態は、自然現象の変化、人為的な行動等にかかわるさまざまな要因によって特徴づけられている。この種の要因からなる外部世界をわれわれが理解していく際には、すくなくとも次の二つの認識の様式がかかわっている。一つは、外部世界のさまざまな事態を、行為、因果関係、変化、状態等を反映する命題的な知識のスキーマに基づいて理解していく様式、もう一つは、具体的なアナロジー（類推）やメタファー（隠喩）に基づくイメージ的な知識のスキーマによって理解していく様式である。

日常言語に反映される意味の世界は、すくなくともこの二つのタイプのスキーマから規定していくことが可能である。ここでは、これらのスキーマを〈命題スキーマ〉と〈イメージスキーマ〉として区別する。……〈命題スキーマ〉は、外部世界の諸相を、行為、因果関係、変化、状態等の基本関係によって把握していくことを可能にする。ここでは、後者のスキーマ（注-命題スキーマ）のうち、とくに外部世界の事態、状況を把握していくスキーマを〈イヴェントスキーマ〉と呼ぶことにする。……〈イヴェントスキーマ〉は外部世界

の事態ないしは状況の把握を可能とする後者の〈状況レベル〉（注－前者の認知レベルに対する）に関係する。ここでは、外部世界のさまざまな事象を特徴づけるイベントスキーマの基本関係として、〈行為〉、〈因果関係〉、〈変化〉、〈状態〉を区別する。』（p234-235）

『……一般に〈状態〉はモノの存在ないしはモノとモノの関係、〈変化〉は状態の推移ないしはモノの移動、〈因果関係〉はモノからモノへの力（ないしはエネルギー）の移動とその影響による状態変化から成り立っている。日常言語は、この種の関係から成り立つ外部世界の多様な事態を、他動性・自動性がかかわるさまざまな構文を通して表現している。』（p251）

『事態認識の基本的なパターン（注－行為・状態・変化・因果関係など）のネットワークに基づく文の認知モデルを、認知ネットワークモデルと呼ぶことにする。日常言語の構文は、このネットワークモデルの基本的なパターンと、その拡張のプロセスを介して相対的に規定していくことが可能となる。』（p251）

本稿で用いる現象枠という概念は、仮に上記の認知言語学の概念体系の中に置いてみるならば、イベントスキーマのあり方の一つとすることができる。ただし、「動詞が表示する行為・動作のなかに生じる変化の過程（平相・流相・異相）」「形容詞が表示する判断（評価）・描写・感情感覚」という実質は、動詞形容詞という言語形式の側から規定されるつまり枠づけられている点で、認識パターンとしての普遍性を根底とするイベントスキーマとは異なっている。動詞の第一次格は変化の過程すなわち現象枠に必須のものとして組み込まれているモノを指示するが、必須のものとされたとする根拠は、言語形式・言語体系の違いによって判断されるという制限が加わっている。

本稿では第二次格が動詞や形容詞と統合して表示する詳述意義を「一つの現象枠をさらに大きな一つの状況に意義領域のなかに位置づける際に、さらに詳しく関連付け（または連結）しておく必要があると認められた他の現象素また

は現象枠を位置づける, その位置づける仕方」とする。一つの状況とは本稿では, 【図1】で「意義領域」と名づけてある概念のことであり, 「一つの叙述時点と一つの叙述場面」のことであり, 通常の「(単)句」は基本的に叙述時点と叙述場面を一つずつ有する, すなわち一つの意義領域を表示するものとみなす。修飾構造や埋め込み構造は, ベースとなる「単文」が指示する状況(【図1】で「意味領域」と名づけてある概念)のなかに他の現象素や現象枠, ときに意義領域までが関連づけられていく有り様を指示するものとみなすことができ, その関連づけ方の分析には, 認知ネットワークの研究成果も参考にできるものと考えられる。

3. 5 4段階の文法レベルと文法術語の整理-FM状語5)について

さて, 前稿から本稿にわたって用いてきた文法術語を【表1】に整理する。

【表1】と【表2】とを比較対照し, 本稿の文法術語が従来の階層文法論とどのような対応関係にあるかを確認していただきたい。

【表1】太線より上が認知的意味, 下が真理的意味の名称。

形式	単語レベル		統合型レベル	句レベル (複合統合型)	文レベル (単句文または複句文)
	統合形式				
語義	意義素	語義的特徴		叙述内容	意味
文法		文法的特徴	統合意義特徴	叙述(事実・論理・行為・変化・状態・因果など)	陳述(述定+伝達) (真実・現実+命令祈願・記録など)
		統合意義			
	現象素			意義領域(状況) 叙述時点・叙述地点	意味領域(場面文脈) 発話時点・発話地点・話し手聞き手
	現象枠				

また南不二男はその著作『現代日本語文法の輪郭』1993大修館書店の「第二章述語文の輪郭」において, 金田一春彦, 渡辺実, 芳賀綏, 服部四郎, 林四

状語中心語統合型の統合意義特徴

郎各氏の文階層の分析を比較して図解したうえで、自らの見解を述べている。(p52) 分析対象はすべて日本語ではあるが、本稿における中国語の分析にあたって、基本的な文法レベルを4階層として捉える文法観を採用しているので、【表2】として対照した結果を示すことにする。

【表2】南説の欄だけ、【 】内に階層名を入れ、付加された形式を補充した。

文頭	↑↑	文末	林	服部	芳賀	渡辺	南
呼びかけの語	ナ・ネ	ゼ・ゾ	伝達		伝達	陳述	陳述副詞 【表出】
	ヨ						～ハ 【提出】
タブン マサカの類	カ・ワ	ウ・ヨウ	表出	表出 する	述定		～ハ 【提出】
	ダロウ						
時の修飾語	タ・ダ	マイ	判断	指し 表し 表出		?	場所の 修飾語 【判断】
～ガ	ナイ						
～ニ	(サ)セル	(ラ)レル	描叙	指し 表す			(～カラ～ト) 様子・程度 ・量 【描述】
～ヲ	動 詞						

本稿の〈単語（動詞形容詞名詞）レベル〉〈統合型レベル〉は描叙段階にはほぼ相当する。用語の統一性を重視するなら形式名の〈句レベル〉〈文レベル〉を用いるべきであろうが、〈叙述レベル〉〈陳述レベル〉のほうを用いることにする。真理的意味を単独で表示する形式よりも、認知的意味に関する語義的意義特徴や文法的意義特徴（時空など抽象概念からなる）を表示する形式が重要になるレベルであり、叙述がより認知ネットワークの解明に近づくことが予想されると同時に、言語形式も二項対立の統合型ばかりではなく、主語と述語の間へ挿入された単独使用の単語（接続副詞や陳述副詞など）をは

じめ、非自立単語の助詞を語義上の核とし、認知的意味を表示する助詞構造などバラエティーに富んでくるためである。

また、認知したり判断したりする主体に名称をつけたのは、服部四郎1957『ソシュールのlangueと言語過程説』言語研究32：だけである。そこで用いられた「不定人称者・第一人称者・表現者・発話者」という名称を本稿でも用いるが、第一人称者の位置づけを変え、次のように用いることにする。

〈単語レベル〉で自立単語形式を用いて外界の真理的意味を現象素として認知するのが不定人称者である。

〈統合型レベル〉〈叙述レベル〉では第一人称者が叙述の営み（＝現象素枠や叙述時点、叙述地点などを表示する）を行う。

〈陳述レベル〉のうち、述定は表現者が叙述内容に対して〈真理基準〉〈現実基準〉などをあてはめて、みずからの立場表明をする営みを行う。伝達は話し手（発話者）が発話時点発話場面で聞き手に対する伝達の営みを行う。

FM状語5)は、否定肯定：程度：重複：範囲の副詞をひとまとめにしたグループである。しかし、本稿の4段階の文法観にたてば、このFM状語5)には分割すべきレベル差を持つ形式が混在している。

まず否定副詞“不”については①“很不”として修飾を受けれる形容詞と組合わさったときには、〈統合型レベル〉の形式とみなす。形容詞の意義素内の判断スケールの方向を変化させると考えられるからである。②その他の形容詞や動詞と用いるときには、格を担う名詞として選択された名詞によって指示されたモノが、格を担うのにふさわしくないとする判断を第一人称者が下したことを表示する〈叙述レベル〉の形式とみなす。真理的意味と関係づけるならば、状況の中で現象枠のありかたが、第一人称者のもつ認知能力に基づき「論理基準または事実基準」に合致していないことを表示する。

FM状語5)のうちの程度副詞もすくなくとも2レベルにわたる区別がある。

状語中心語統合型の統合意義特徴

① “很”は形容詞の格を担う名詞がふさわしく選択されたという第一人称者の肯定判断を表示する〈叙述レベル〉の形式である。ただし、その判断する対象となる形容詞と名詞との格関係が、判断（評価）感覚感情であり描写ではないことから、程度のスケールをもあわせもっていることがわかる。② “最・更・还”は、「グループとしてまとめられた事物内での比較結果」を表し、かつ判断の方法について共通の弁別の特徴を持つ。しかも、“很”と異なり“的”字構造（「最・更・还」+形容詞+“的”）の形式で名詞相当の文法的機能を担える）をつくれるという文法的意義特徴をもつ。比較されるものは発話の度に集められ、しかも言語化されずに文脈や場面の中で話し手と聞き手の間で特定され、真実の意味として形式を通さずに伝達されることが多い。この統合型は典型的な叙述レベルの形式とは見なしがたく、このようなレベルとレベルの境界線にある形式も存在する。

重複と範囲の副詞およびF 6) 7) 状語は本稿が扱うデータと関係がないのでここでは触れないことにする。

4 【パターン表Ⅰ】と【パターン表ⅡA】の比較

【パターン表Ⅰ】と【パターン表ⅡA】はともに、動詞と形容詞との間にVA型が成立する組み合わせを扱った資料である。前稿でVA型の統合意義特徴としてとりだしたものは次の2つであり、その他VA型分析の要点を再録する。

【VA型統合意義特徴Ⅰ】(p18)

VA型はつねに述語動詞が表す動作行為の行われる同じ時点で、設定されたなんらかのスケールを用いて、動詞が表す「出来事」を形容詞が判断・評価する。(状態形容詞が使えない以上、描写はしない)

【VA型統合意義特徴Ⅱ】(p20)

VA型は動詞の平相に存在する事物がそのまま異相まで存在した場合

(すなわち「動作主格」「動作対象格」として存在した場合)、動作行為を経て平相と異相との状態を具体的に比較した判断結果が、動詞の意義素が指示する「事柄」のうちで穏当な変化と認められた場合に「典型VA」となる。そして他の文法レベルにおけるすべての比較判断基準を付加する(または受け入れて共起する)ことができる。

上記の下線部の「同じ時点」については「同時進行」つまり動詞の表す変化と形容詞の表す判断評価の結果とが現象素として同時に認められることを指摘した。ここでいう時点とは叙述時点ではなく、動詞の現象素内の平相・流相・異相の変化に伴う時の流れを、一つの時間幅として捉えたものであり、本稿では「事点」と呼び変えることにする。

また、「典型VA」は通常、過分義と非過分義とを表せるが、そうでない「非典型VA」は動作後に出現すると予想された期待値よりも過分であったという非過分義を表すことにも触れた。期待値というものは叙述レベルの第一人称者または陳述レベルの話し手が設定する基準であり、「非典型VA」の成立には基本的にアスペクト助詞“了”が組み合わせられている、つまり事点が叙述時点と結びつくと解釈したことによって、その理由を説明することができる。

4. 1 典型VA型と可能補語

前稿において、「VA型」から「V得A型」に変換のきかないパターン(M1パターン)の用例を検討したが、【パターン表II A】ではV得A型が持つ二つの統合意義すなわち①能力への評価=ある結果へ到達できる(可能補語)②様態補語とを区別する方法をとった。その結果、次の原則が見いだされた。

【可能を表すV得A形はV不A形が成立する動詞・形容詞の組み合わせでのみ成立する。つまり、可能補語の肯定否定は二つともに成立または二つともに不成立であり、このことはVA型の動詞と形容詞の関係が能力や可能性の基準をあてて判断できるかどうかに対する中国社会の一般常識を反

映していると考えられる。】

インフォーマント3名がそろって、この原則に反するとした用例は次の4例だけであり、別個に確認した際もその語感に変化しなかった。

	<u>V不A形</u>	<u>V得A形の統合意義</u>
毛线纺得粗，时常出现疙瘩。	※纺不粗	様態可能ともに可
野草长得旺。	※长不旺	様態可能ともに可
对你管得紧一点儿，有什么不好。	◎管不紧	様態だけが可
你查得不严，就让塔钻了空子。	◎查不严	様態だけが可

もとの用例の文脈を反映した内省報告ではあるが、互いに類似点があった。まず、※“纺不粗”では機械編みにしろ手編みにしろ放っておけば太くなる傾向をもつただから、太くできないということはある。反語文などで「できないはずがあろうか！」という文脈で肯定型が使われる。※“长不旺”では自然現象にわざわざ手をつけるのならばプラスの方向に限られ、マイナスの方向に手を加えることは想像しにくい。“管得紧，查得严”ではもともと厳しい基準をあてはめることが（注一動詞の意義素中の弁別のかつ語義的意義特徴として）含まれているのに、厳しくできるとわざわざ言うとき妙な感じがする。むしろ、当然あるべき状態になれないことのほうが言語としてわざわざ表現する必要があると思われる。

それでは、可能不可能の判断対象とならないVA型すなわち【パターン表II A】のなかで、①V不A形をもたず②V得A形の意味が様態だけを表すVA型にはどのような特徴が認められるであろうか？

【可能補語を持たないVA型の統合意義特徴I】

VA型の形容詞が、具体的意味と抽象的意味を持つものであるとき、抽象的意味のほうが補語として用いられる。

ここでいう「具体的意味」とは「真理的意味として存在する、人間の五感によって直接捉えることのできる現象素」のことであり、抽象的意味とは「認知

的意味として存在する、人間の五感が対象を捉える捉え方とその結果」のことである。そのことは次の【V不AリストI】で確認できる。リストの左側がV不A型への変換がきかないVA型であり、形容詞が抽象的意味を表している。右側がV不A型になれるVA型であり、形容詞の意味が具体的である。()内は【パターン表I】から再録したVA型。?は例外。

【V不AリストI】

催緊	閉緊・貼緊・抓緊
長緊湊	配合緊湊
敲重(批評重 etc)	
走寬・管寬・放寬政策・处理寬	放寬心
說細・打听細・听細	擷細・碾細 ? 观察細
說严	(盖严・关严 etc)

【可能補語を持たないVA型の統合意義特徴II】

VA型の表す変化が、人間の意志によってコントロールできない。

そのことは次の【V不AリストII】で確認できる。リストの左側がV不A型を持たないVA型であり、その動作行為に人間のコントロールがきかない。リストの右側がV不A型に変換できるVA型であり、人間のコントロールがきく。

【V不AリストII】

脹飽・积厚・長匀称・累迷糊	绕迷糊
? 造厚	
想复杂・想苦・忘干净	做彻底

“造厚”は対象が万里の長城など大きな建造物の場合用いられ、分厚いという語感がもともとそぐわないVA型であるためか? 上記二つの統合意義特徴は【パターン表I】のなかのVA型にも高い確率であてはまるようである。

【可能補語を持たないVA型の統合意義特徴III】

さらにまた、前稿でVA型に加えた分類のうち、三宅登之1991「“的”字

结构里头的述补结构与“了”」《汉语学习第一期》p22-26, が指摘したVA型のグループの一つ, 「①的字構造のなかで必ず“了”を伴う②予想外の結果を表し, “偏离”の意味を表す」グループは通常の文脈ではV不A形が成り立たない。このVA型が典型VAでないことは明かである。

【了を必要とするVA型リスト】再録。

过倒霉了的杂姓, 用烂了的“英雄救美人”的套路,
转疯了的留声机片, 洗粗了的手, 煮老了的猪肝,
挖浅了的(坑), 锯长了的(木头)
洗脏了, 跑慢了

このうち, “挖不浅”“锯不长”は“挖不深也挖不浅”“锯不短也锯不长”という対句で用いて, 「程度がちょうどよい」ことを表す以外には用いられそうにない。“洗不脏”“跑不慢”は「そうなるはずがない」という予測を表す用法はあるが, 不可能を表す用法はない。

这水我刚 tóu 一件衣服, 你用它洗什么都可以, 洗不脏。

(この水はさっき一枚たたき洗いをしただけだから, 何を洗っても大丈夫, 汚れはしないでしょう)

他那样的跑法, 效果很好, 一定跑不慢。

(かれのあの走り方は効率的で, きっと遅いはずはない)

【パターン表II A】の中でも“点暗”はこのグループに属するといえよう。そこで, VA形の無い3グループはすべて非典型VAに属するとみなせる。

4. 2 感情形容詞とVA型—【パターン表III】の作成

では, 少数ながら存在する感情形容詞を補語とするVA型(本来, 非典型VAに属する)ではどのようなV不A形がみられるであろうか?

感情形容詞の形容詞としての特殊性については本稿では論じないが, 調査資料の作り方は他の形容詞とは異なる工夫を加えた。すなわち, 類義語グループ

【パターン表Ⅲ】(2つマークがある欄左側40才女性:右側27才男性の語感)

動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	形容詞	V A 型	V 不 A	V 得 A 型			A 地 V 型		
			A	(不可 能)	A	很 A	A A	A	很 A	A A
答应	他要写文章, 我愉快地答应了。	愉快	×	×	◎×	◎	*	●	◎	*
		高兴	×	×	×	×	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	×	×	×	×	×	×
		痛快	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		开心	×	×	×	×	×	×	×	×
吃	我们在传达室坐得舒适, 吃得愉快。	愉快	×	×	●	◎	*	◎	◎	*
		高兴	△	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	×	×	×	×	×	×
		痛快	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎×
		开心	×	×	◎	◎	*	◎△	◎△	*
笑	领导同志点点头, 高兴地笑了。 ○例文 女儿快乐地笑着, 向这边跑来。 听了他讲的故事, 孩子们都快活地笑起来。	愉快	×	×	◎×	◎	*	◎	◎	*
		高兴	×	×	◎×	◎	×	●	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×○	×○	×
		快活	×	×	◎×	◎	×	×○	×	×
		痛快	×	×	◎	◎	△	◎	◎	◎
谈	我们正谈得高兴, 警报的汽笛生又响起来了。 ○例文 谈高兴了, 就和大家一起笑, 谈不高兴, 就大吵起来。 老同学们见面, 快活地谈起那一段同窗往事。 这次谈痛快了, 可那种谈话, 谈不痛快了。	愉快	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
		高兴	○例文	○例文	●	◎	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	△	△	×	×◎	×◎	×
		痛快	○例文	○例文	◎	◎	×	◎	◎	◎
开心	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*		

状語中心語統合型の統合意義特徴

動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	形容詞	V A	V不	V得A型			A地V型		
			A	(不可 能)	A	很A	AA	A	很A	AA
听	听得高兴了，就跟大家一块儿笑笑。 ○例文 听高兴了，他就插上几句话，听不高兴了，扭头就走，真不给面子。 老师不在，孩子在开心地听着收音机里的童话故事。	愉快	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
		高兴	○例文	○例文	●	◎	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	△	△	×	×◎	×◎	×
		痛快	○	○	◎	◎	×	◎	◎	◎
开心	×	×	◎	◎	*	例文	◎	*		
上课	孩子们高高兴兴地上课去了。 ○例文 学生们上他的课都上得很愉快。 大家聚在一起，愉快地谈起那一段往事。	愉快	×	×	×△	×○	*	◎	◎	*
		高兴	×	×	×	×	×	例文	◎	●
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	×	×	×	×	×	×◎
		痛快	×	×	×	×	×	×	×	×◎
开心	×	×	×△	×	*	×	×	*		
过	…，他便无疑地还可以快乐地过一次生日。 ○例文 和他过日子，过不愉快。过高兴了，二人手拉手十分亲蜜，过不高兴就谁也不理谁。 日子过痛快（开心）了，现在什么都有。	愉快	△	○	◎	◎	*	◎	◎	*
		高兴	○例文	○例文	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		快乐	×	×	◎	◎	×	●	△◎	△◎
		快活	×	×	◎	◎	×△	△○	△○	×◎
		痛快	○例文	◎	◎△	◎△	×	△	△	◎△
开心	○例文	◎	◎	◎	◎	*	◎	◎	*	
休息	在那里，我努力地创作，快活地休息。	愉快	×	×	×	×	*	△○	△	*
		高兴	×	×	×	×	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	◎	◎	×	●	◎	×
		痛快	×	○例文	◎	◎	△	◎	◎	◎
		开心	×	×	◎	◎	*	×	×	*

動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	形容 詞	V A	V不	V得A型			A地V型		
			A	(不可 能)	A	很A	AA	A	很A	AA
吸	他……，痛痛快快地吸了 几口新鲜空气。 ○例文→“心情愉快地”の 主述統合型で状語になる ○例文 这种烟，劲儿小吸不痛快。	愉快	×	×	×	×	*	△○	△	*
		高兴	×	×	×	×	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	◎	◎	×	◎	◎	×
		痛快	×	○例文	◎	◎	△	◎	◎	●
		开心	×	×	◎	◎	*	×	×	*
喊	在出城根儿的时候，他痛 痛快快地喊了几声。	愉快	×	×	◎×	◎×	*	◎×	◎×	*
		高兴	×	×	◎△	◎△	×	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	△	△	×	△	△	×
		痛快	×	×	◎	◎	×	◎	◎	●
		开心	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
说	他很开心地说着：“好看吧， 多漂亮。” ○例文 说高兴了，就和大家一起笑， 说不高兴，就绷起脸。 一群人一边快活地说着什么， 一边向这边走来。 和他讲话别扭，说不痛快。	愉快	×	×	◎	◎	*	×	◎	*
		高兴	○例文	○例文	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		快乐	×	×	×	×	×	×	×	×
		快活	×	×	◎	◎	×	×○	×○	×○
		痛快	◎	○例文	◎	◎	×	◎	◎	◎
说	“怎么会没有姓？”他奇 怪地说…	奇怪	×	×	◎×	◎	×	●	◎	×
		滑稽	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
		可笑	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
提 (问)	这个问题提得很奇怪，有 谁去认真计算呀！	奇怪	×	×	◎	●	×	◎	◎	×
		滑稽	×	×	◎	◎	*	×○	×○	*
		可笑	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*

状語中心語統合型の統合意義特徴

動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	形容詞	V A 型	V 不 A	V 得 A 型			A 地 V 型		
			A	(不可 能)	A	很 A	A A	A	很 A	A A
显着	黑影里的砂山奇怪地显着一层暗红。	奇怪	×	×	◎	◎	×	●	◎○	×
		滑稽	×	×	◎	◎	*	○	×	*
		可笑	×	×	◎	◎	*	×	×	*
行礼	“是！”他滑稽地行了一个举手礼。 ○例文 他也跟着行礼。 事后他觉得当时自给行礼，真是行得奇怪（滑稽）（可笑）。	奇怪	×	×	○×	○×	×	◎×	◎	×
		滑稽	×	×	例文：○	*	●	◎	*	
		可笑	×	×	例文：○	*	◎	◎	*	
糊涂	我们那时糊涂得可笑，只知有“革命”二字 …	奇怪	×	×	×	×	×	×	×	×
		滑稽	×	×	×	×	*	×	×	*
		可笑	×	×	●	◎	*	×	×	*
哭	老人哭得很伤心。她伤心地哭了。	伤心	◎	×	◎	●	*	●	◎	*
		悲伤	×	×	◎×	◎×	*	◎	◎	*
		悲惨	×	×	△	△	*	×	×	*
		难过	×	×	◎	◎	*	◎	◎	*
说	“日本人炸死了我的哥。”他悲伤地说… ○例文 “回去吧”他疑了片时，这才悲惨地说。 她说难过了，就停下来。	伤心	◎	×	◎	◎	*	◎	◎	*
		悲伤	×	×	◎	◎	*	●	◎	*
		悲惨	×	×	△	△	*	○×	△	*
		难过	○例文	×	◎	◎	*	△?	◎	*
眺望	她在街上…悲伤地眺望着牢房的窗戶。	伤心	×	×	△×	△×	*	◎	◎	*
		悲伤	×	×	△×	△×	*	●	◎	*
		悲惨	×	×	×	×	*	×	×	*
		难过	×	×	×	×	*	×	×	*
结束	最近这一周的远东旅行，已经悲惨地结束了。	伤心	×	×	×	×	*	◎×	◎×	*
		悲伤	×	×	×	×	*	×	×	*
		悲惨	×	×	◎	◎	*	●	◎	*
		难过	×	×	×	×	*	×	×	*

動詞	《实用汉语形容词词典》 の中の例文	形容詞	V A 型	V 不 A	V 得 A 型			A 地 V 型		
			A	(不可 能)	A	很 A	A A	A	很 A	A A
死	他悲惨地死去了，死时的样子今人目不忍睹。	伤心	×	×	×	×	*	×	×	*
		悲伤	×	×	×	×	*	×	×	*
		悲惨	×	×	◎	◎	*	●	◎	*
		难过	×	×	×	×	*	×	×	*
走	他觉得没有趣味，一个人寂寞地走了。	寂寞	◎	×	◎	◎	*	●	◎	*
		孤单	×	×	×◎	×◎	×	◎	◎	●
坐	只有那个孤单单地坐在那边的老妇人… 他孤独地坐在火炉旁，用绒线编织着白花。	孤独	×	×	×	×	×	◎	◎	●
生活	住在这一带…风景区里，生活得很寂寞。	寂寞	×	×	◎	●	*	◎	◎	*
		孤单	×	×	◎	◎	×	◎	◎	×
		孤独	×	×	◎	◎	×	◎	◎	×
睡	黑夜，他孤单单地睡在船上，…真是寂寞凄凉	寂寞	×	×	◎×	◎×	×	◎	◎	×
		孤单	×	×	×	×	×	◎	◎	●
		孤独	×	×	×	×	×	◎	◎	×

c.f 孤单单(地)，孤独独(地)=状語としてだけ用いる。

ごとに同じ例文（述語としての動詞Vが同じ，文脈も同じ）で使えるかどうかを調査し，【パターン表Ⅲ】（p30～p34）を作成した。

また，感情形容詞の用法については最後まで意見の相違が残る率が高く，年代の差が現れやすく，流動的な言語現象がみられた。そこで【パターン表Ⅲ】には意見の相違をそのまま残し，年齢差による用法の変化がわかるようにした。

【パターン表Ⅲ】の中で3人のインフォーマントが認めた用例は以下のものである。（◎は全員が認めた用例であり，アンダーラインはV不A形をもつとされたもの。）

【感情形容詞を含むV A型】

◎吃痛快，说痛快，谈痛快，哭伤心，走寂寞

○说高兴, 谈痛快, 听痛快, 过高兴 (痛快, 开心), 说伤心 (难过)

谈高兴了, 就和大家一起笑, 谈不高兴了, 就大吵起来。

(おしゃべりが楽しければみんなとワイワイ騒ぎ, 不愉快になれば口げんか始める)

和他讲话别扭, 说不痛快。

(彼とはどうも話しにくくて, 話していてすっきりしない)

これらのVA型の用例の共通点は①すべて“了”がつけられている②○の用法は恒常的な様子を条件文で描写する(「～すると, ≈」の意味)ことにある(それに対し◎は“了”で一回きりの様子を述べる)③V不A形は単独で用いられると, 様態を表す。の3点にあった。すなわち, このグループはV不A形をもつものの, それは可能性・能力についての判断をしてはいない。

したがって, 本稿で調べた限り-4. 1, 4. 2, を通じて-ではつぎのことが確認された。(()内の用語は真理的意味に属する概念)

【非典型VA (が指示する現象素)は動詞の動作主・対象に関する能力・(動詞の異相がある状態へ到達)可能性を判断する対象にならない。】

4. 3 同一の形容詞と組合わさる動詞の違いとA地V型への変換可能性

—【パターン表II A】から【VA型分類表】の作成

【パターン表I】のM3項目は, A地V型に変換できるVA型の数を表している。【パターン表II A】ではA地V型の項目で, ◎が例文どおりの動詞と形容詞の組み合わせが「統合型単独でも聞いて理解できるほど一般的な用法」であることを示し, ○が形容詞と組み合わせる動詞を変えるか, または特殊な文脈で使える用法であることを示している。ここでは, この二つの一覧表に基づき, VA型を次の表のように分類する。(表の中の○は, 統合型成立を表す)

すべてのデーターを列挙しても, もとのVA型が基礎資料Iと基礎資料IIの範囲内だけのものであるので, 確かな検討対象とするわけにはいかない。形容

M状語名	分類名	【パターン表ⅡA】の表記	【パターン表Ⅰ】の表記
	VA①	A地V型×：V得A型○	(M3×)
M1M3状語	VA②	A地V型○：V得A型○	(M3○・典型 or M2)
M2状語	VA③	A地V型○：V得A型×	(M3○・M1)

(刘月华のM状語分類名を借用しているが、分類内の成員には異論あり)

詞に対して他の動詞をくみあわせたらどうなるかについては未知の部分が残るからである。しかし、基礎資料中の同一の形容詞に対する異なった動詞との組み合わせがVA①とVA②，またはVA①とVA②とに分かれた場合は，文法分析のための資料として価値を認めることができよう。その限られた用例のなかでも，A地V型に変換できるかできないかをわける要因を探ることができるからである。この分類方式でできた表を【VA型分類表】と名付ける。

4. 4 A地V型○・V得A型×の変換パターン総論

さて，【VA型分類表】のVA③欄と，感情形容詞と動詞との組み合わせを調べた【パターン表Ⅲ】とを見渡してみると，A地V型が成立するにも関わらずV得A型が成立しない，動詞と形容詞の組み合わせは極めて少ない。“好，愕，乱，満”のVA③欄と【パターン表Ⅲ】の“快乐，快活，高兴，痛快，伤心，孤独，孤单”のデーターを参照していただきたい。用例中のA地V型は確かに「動作の様態を示すM2状語+中心語」の統合型とみなそうとすればできないことはない。しかしそれでは，動詞（しかも動作動詞）を入れ換えただけでV得A型も成立することについて，一貫した文法的説明をあたえることはできそうにない。

そこで，同一の形容詞と組合わさって，V得A型のみを成立させる動詞とV得A型とA地V型を両方とも成立させる動詞を対照しつつ，次の3つのポイントについて，A地V型の統合意義特徴を探ることにする。

状語中心語統合型の統合意義特徴

【VA型分類表】

(・左側=A地V型・右側=V得A型；+右側=動詞リスト cf. 下線は複音節動詞) (H=“很”で修飾；M2と☆=【パターン表I】と同じ用法 cf. M2 状語とは無関係) (1)～(5)は4. 9, 項目で検討対象とした形容詞)

形容詞	VA型①A地V型 ×・V得A型○	VA型②A地V型 ○・V得A型○	VA型③A地V型 ○・V得A型×
矮	・H+飞缝改盖画擦扔绣坐 ・M2+安做	☆+挂奎砌控凿・H ☆+搭压・M2	
暗	・H+变遮	☆+点・M2	
薄	・H+剪去使压用 ・M2+擀锯	☆+刨擦垫磨铺・H ☆+糊烙切摊削絮织做・M2	
长	・M2+(15個)	☆+织做・M2	
迟	・H+办来去	+睡・H	
稠	・M2+冲打做	☆+熬研・M2	
粗	・H+变使/・M2+练	+画描切写・M2	
大 1)	・H+打钉刮加买 ・M2+(14個)	☆+变样 撑瞪画刻写张做・M2	
呆	・☆+惊吓	+看听想・M2	
短	・M2+改揪理去(カットする)	☆+织做(裁剪锯)・M2	
多	・H+费说	☆+熬拌剥炒盛吃抽・M2	
复杂	・H+改搞弄	+想・H	
好 2)	・H+订 ・M2+倒酒 灌水(ポットへ)	+考烤看(見守る)锁・H +(87個)・M2	+看(見る)试・
糊涂3)	・M2+催闹气笑 ・☆+吓 支使	+搞过看弄烧数问・M2 ☆+考忙・☆/☆+算・H	
花		☆+抹染・M2(色とりどり)	

形容詞	V A型①A地V型 ×・V得A型○	V A型②A地V型 ○・V得A型○	V A型③A地V型 ○・V得A型×
机灵 4)	・H+学	+变问法・H	
近 5)	・M 2 +拿	+挨凑靠走・M 2	
久	・H+摆病穿戴蹲用住	☆+站坐(呆)・H	
空	・H+搬 / M 2 +盗抢吐挖蛀	☆+腾房子・☆	
苦	・H+害 欺负	☆+想 折腾 整・H	
宽	・H+接拉 / 走管放 处理	☆+加・H +裁叠锯铺挖织・M 2	
烂	・H+炒	+熬炖・M 2	
累	・H+ (27 個)	H+跑抬・H	
愕	・☆+打	☆+问笑・☆	+看听・
厉害	・H+变烧	+说・H	
乱	・H+动搞搅拿	H+搬发碰数・M 2 +吹翻放记排装・M 2	+打・
满	・☆+安缠铲搭打戴蹬滴垫划 ・M 2 +招	+安排 塞装・M 2 ・☆+ (30 個・M 2 19 個 ☆11 個)	+腌・
猛	・H+使劲儿	+冲・H	
迷糊	・M 2 +灌醉 / ☆+发烧	+睡・☆ / ☆+绕・M 2	
明白	・M 2 +搞闹弄	◎+查 打听 讲看说听问写・ M 2	
模糊	・M 2 +蹭洗	◎+印・M 2	
暖和	・M 2 +变穿盖睡焐	☆+烤晒・M 2	
齐	・M 2 +比对	H+摆裁叠剪走・M 2	
清楚	・M 2 +摸弄	◎+ (16 個)・M 2	
热	・H+打睡跳走 / ・M 2 + (7 個)	☆+烤 烧粥・M 2	
软	・M 2 +晒	☆+和烤泡・M 2	

状語中心語統合型の統合意義特徴

形容詞	V A型① A地V型 ×・V得A型○	V A型② A地V型 ○・V得A型○	V A型③ A地V型 ○・V得A型×
傻	・ M 2 + 吓	☆ + 看笑・ M 2	
少		+ 浇买抹做・ M 2 ☆ + (10 個)・ M 2	
碎	・ M 2 + 炒打颠磕碰踢凿	+ 嚼・ M 2 ☆ + 崩刹挤厮压轧砸震 + M 2	
歪	・ H + 画剪裁凿长 ・ M 2 + 安	H + 顶钉缝写・ M 2 ☆ + 戴挂贴・ M 2	
晚	・ H + (20 個)	+ 回来 起去睡・ H H + 接 开车・ H	
响	・ H + 踩	H + 摠放・ H H + 吹拉敲摔・ M 2	
早	・ H + 跳 (タイミング)	+ 回来 起去醒走・ M 2 + (15 個)・ H	
足	・ M 2 + 开买	☆ + 憋吃喝睡赚・ M 2	

- ①【A地V型】内の形容詞が判断・評価・描写する対象は動詞の現象素の中のどの部分か？（平相，流相，異相および第一次格）
- ②動詞の現象素が存在する状況と発話時点・発話場面とのどの関係か？（叙述時点，叙述場面および時制）
- ③動詞の現象素と同一の状況に存在する他の現象素とはどういう結びつき方をしているか？（第二次格）

前稿でV A型の統合意義特徴を考察した時には，当然のこととして上記のポイント①を中心とした分析結果をだすことになった。ポイントの②と③は，中国語の状語10種類全体を見回す時に，常識的語感からみて存在する可能性のある意義特徴である。

ここで前稿でV得A型の統合意義特徴を分析した結果を抜き書きして，A地V型との比較の便をはかることにする。

【V得A型統合意義特徴Ⅰ】（前稿 p34）

V得A型の現象枠には「V得」の意義素が表示する「格関係を有し、かつ異相まで完遂した現象素」がひとつ存在し、それは叙述時点を担うことのない、事柄を表す。また、その他に形容詞の意義素が表示する「格関係を有する現象素」が存在する。それら、ふたつの現象素を表示しているふたつの意義素の間には、形容詞が格として判断（評価）対象・描写対象・原因・経験者のどれをとるか、および形容詞が動詞の関連するどの事物（「V得」を含む）をその格に当てるかによって、統合型の統合が1つ成立する。（前稿の「指示する」を「表示する」と変更）

【V得A型統合意義特徴Ⅱ】（前稿 p39）

形容詞の本義が第一に優先され、その本義が基本的な格関係を支配する。本義とは原則的に次の優先順位がつけられる。

①具体的な形状の判断・描写、②スケールが明確で数値化できるような判断③好悪の判断・知覚を基準とした評価、④感情を誘発するような状態

このV得A型の統合意義特徴Ⅱにおける形容詞の語義的優先順位は、形容詞本来の意義素の多義構造を認知科学的観点から順序だてた系列を忠実になぞる結果がでてきている。ひとつの形容詞の意義素が4通りもの多義すべてをもつことはないが、重畳型だけが使われる組み合わせなどは、優先順位一位の形状描写だけがかろうじて統合型の意義特徴にマッチした例といえる。

また、この順序は「V得」の前に置かれる格を担う形式をどう選択するかに影響を与え、V得A型は「“把・被”を使うなら成立する、動詞の動作主格ではなく対象格を前置するなら成立する、“正”を前置きすれば成立する」などの文脈的条件（言い替えれば、ひとつの状況の中での位置づけ）を導く。

本稿では、V得A型に前置される名詞と介詞統合型とを形容詞の格・動詞の格と関係づけて次のように整理する。

【V得A型において動詞と形容詞の格を担う文法形式（名詞）とその位置】

状語中心語統合型の統合意義特徴

動詞述語文	叙事A (強)	叙事B	叙事C	叙事D (弱)
叙事性段階 文法形式	Vの前	<u>把</u> ～	Vの前 <u>被</u> ～	Vの前
動詞の格と 主語・主題	動作主格 (前置格が定位置=主語) ～=対象格・生産物格		～=動作主格 対象格・生産物格 スペース (後置格を前へ移動=主題1)	場 所 (=主題2)
形容詞の格 を担う成分	主語 V得	“把”の目的語 (主語)	主題1 (主題2)	主題1 主題2

ここでいう叙事性段階A B C Dとは、さきに引用した山梨正明の<イヴェントスキーマ>のうちの<行為>から<状態>への階段的移行を示す。有意志から無意志への変化も反映されている。

なお、“很”A形とAA形(重畳形)とがどの形式に格を担わせるかについては、前稿で次の文法的意義特徴のあることを確認した。ただし、検討対象としたのはV得A型内の“很”A形とAA形(重畳形)であるので、本稿ではもう一度あらたにA地V型内での文法的意義特徴を探ることになる。

『很A形が格を担わせる名詞は、通常その名詞の意義特徴のなかに、その形容詞(A)の①スケールが当てられる、または②取り出して描写できる弁別的意義特徴を含まねばならない。AA形の方は、「(“要”“把”N型などによる)文脈的補充に支えられて、その名詞の叙述時点における意義領域の中に、その形容詞(A)が取り出して描写できる意義特徴をまねばならない。』(前稿 p46)

4. 5 【VA分類表】の用例の検討(1) - V好

“好, 愕, 乱, 満”について、V得A型が成立しない動詞との組み合わせは

次の用例である。ここでは、V得A型をも成立させる動詞との用例と比較しながら、A地V型の統合意義特徴を探っていく。

【VA型分類表】VA③例文（ ）内は文成立のための必須要素のひとつ。

- | | |
|----------------|------|
| 这本书要很好地／好好儿地看。 | (要) |
| 这双鞋好好儿地试一下吧。 | (一下) |
| 他愣愣地看着她。 | (着) |
| 她愣愣地听着音乐。 | (着) |
| 雨点乱乱地打在窗玻璃上。 | (在～) |
| 满满地腌了一缸咸菜。 | (一缸) |

“看好” “试好” はともに、「ちゃんと読む」「ちゃんと試す」という方法を評価した意味を表し、動詞そのものも無限動詞として(平相)流相しか表さない組み合わせである。動作が終了しても、動作主自身をはじめ対象物や生産物に具体的な変化(位置の移動を含む)が起きないことは、あらたに判断の対象をとらえることができないことに通じる。

しかしそれだけならば、“吃好” “打好(球)”などはどうしてV得A型も成立するのか? “吃好”は日常生活の関心事として「おなかいっぱいになる、快適な食事時を過ごす」という特殊化された意味をもつこと、“打好”はきわめて具体的な行為であり、一瞬一瞬評価の対象にすることができ、副詞“正”を加えてAA形で「V得」を描写の対象にすることができること、などの相違点をもつためと考えて良いであろう。“看好” “试好”は「手間暇かかる繰り返しを必要とする」という共通の語義的特徴があり、このために前稿で指摘した「V得」は長時間かけてある結果をだす動作・行為を表すことはできない」という文法的意義特徴に抵触するのではないかと考えられる。

さて、いづれにしても、V得A型における“好”は主語として動作主をとれば、「動作行為への評価」を表す。主題として対象物をとれば「ある目的をもった動作行為のできあがりぶり」を表す。さらに“很”A形とAA形の違いは①

状語中心語統合型の統合意義特徴

一般的な良さと高水準の良さという評価の程度差②論理的な、すなわち叙述時点を超越した評価とある叙述時点を想定した一時的な評価の2点にある。これらは今回の調査でも前稿 p52 で指摘したとおりであることが確認できた。

それに対し、A地V型に動作主、対象物、生産物を前置した場合の“好”の用例は収集した限りではすべて「勧告、命令」「仮定」の文脈に置かれ、すべて有意志の叙事（ABCの3段階にわたる）を表している。

这是件值钱的衣服，你可要很好地（※好好儿地）穿着它，别弄脏了。

好好儿地坐着！ （“很好地”は幼児向け表現）

这口袋要是很好地／好好儿地拆开，还能重新利用。

别淘气，好好儿地穿衣服。 （“很好地”は幼児向け表現）

把这张桌子好好儿地／很好地垫一下。

请小朋友们好好儿地站在这儿等着老师。（“很好地”は幼児向け表現）

上記A地V型のなかの“很”A形とAA形とを比較すると、前者は「異相の状態を良好にさせるよう目的意識を発揮して、Vする」、後者は「流相で積極的にうまくVする」という統合意義を表すといえよう。

また、A地V型に場所を前置した場合、“铺”“砌”の二つの動詞で状態を表す例文がみつかった。

在原来的遗址周围很好地／好好儿地砌了一道墙。

“了”と数量詞が文成立のための必須の要素である。①一回きりのできごと②量の指定があることで、動作行為の異相の状態（終わり方のパターン）が指定されている。そして、本来動作主格を主語にとるならば、つまり単独のかたちで述賓統合型を作るとすると、目的語が生産物格を担うのであるが、場所を主題にいただくことによって、動作行為を通じて存在が可能となった事物すなわち当体格をも担うようになる。このように、目的語が二重の格を担う使い方ができることは、A地V型内の“很”A形とAA形がVの流相や異相への評価や描写だけをしているのではなく、（“好”の場合には）「Vが動作主による目

的を達成しようという有意志の行為であること」という動作主格と動作との意味関係をも表示するため、状況レベルで言い替えるならば現象枠の結びつき方をも表示しているためと考えられる。

このことはA地V型とV得A型とで指示する状況（真理的意味）そのものが変化する用例を検討することによって裏付けられる。多義構造をもつ形容詞が統合型の統合意義特徴の影響を受けて、語義を選択する例には前稿でもふれたが、動詞にも同様のことが生じる。

那孩子太淘气了，你要很好地／好好儿地说说他。

↑↓ （「言い聞かせる」という説諭の目的を持った
行為の語義が最優先される）

你说得很好。（“跟他” “汉语”などを状語や小主題の位置に置ける。

語義としては「スピーチする」「相談する」が選ばれる）

你可要跟他说得好好儿的。（「相談する」という語義が最優先される）

↑↓

说好上午八点去游泳，可是快九点了，他还没来。

（「約束する」という固定した語義。目的語として句（格と
しては思考対象）をとる時以外は必ず“了”をつける）

V A型とA地V型・V得A型とで動詞の語義に変化が生じるものとしては、他に“带好”などがある。

你把钱带好，可别丢了！（「身につけて携帯する」の語義。異相でよくそ

↑↓ の状態が確立できていることを表示する）

你要很好地／好好儿地带孩子，别到处乱走。（目的達成への評価／意志）

你要把孩子带得很好／好好儿的。（「V得」への評価／描写）

（ともに「引率する」の語義。）

以上の考察を経て、A地V型の統合意義特徴として少なくとも次のことが言えそうである。

【A地V型統合意義特徴I】（VA型を成立させる動詞と形容詞について）

【形容詞が判断・褒貶形容詞であり、かつ主語が動作主である場合】

動作主がある動作を行うにあたって、動作の異相・流相に対するプランのたてかた（もくろみ）を形容詞で詳述する。

“很”A形は異相（到達する様相）に対する意志（＝もくろみ）を判断・評価対象とし、AA形は流相（動作のやり方）に対する意志（もくろみ）を、描写対象とする。

この統合意義特徴の規定は、刘月华のM1状語（＝動作主を描写する）よりも精密であり、かつ“好”がM1状語M2状語（＝動作を描写する）双方にまたがる意味をあらわすことを解決する。

また、状語としての“很”A形とAA形の文法的機能の違いを、動作以前・動作過程・動作以後との関連に注目して考察した論文に次のものがある。

原由起子1989「程度副詞“很”と状語の関係について」姫路独協大学外語学部紀要第2号 p173-190,（以下、H論文と略称する）

H論文ではつぎのような言語事実が指摘されている。（注－は本稿の補足）

- ①AA形は進行を表す副詞“在”と共起できるのに対し、“很”A形は共起できない。（注－動作主格を主語に置いた場合）“在”は動作以前（注－④⑤参照）も動作以後（注－M3状語、賓語を修飾）も修飾しない。

* 他在清楚地写字。 * 他在干净地擦桌子。

また、“着”もM3状語と共起しない。

* 他清楚地写着字。 * 他干净地擦着桌子。

- ②“很”A形は動作（動作過程）を修飾しない。（注－M2状語にならない）
③動作過程を修飾するM2状語（用例は“平静”“安静”）は原形・AA形とともに、“不”によって動作とともに否定される。

不安静地睡觉, 不安安静静地睡觉（すやすや眠ってはいない）

（注－寝付いていないこと）

- ④M1 状語のうち、動作者の一時的な心理変化をあらわすもの（用例は“高兴”“急忙”“慌忙”“奇怪”）は“很”A形，AA形でない場合、（注一 状態形容詞に変換していない場合とも言える）状語部分と述語が各々独立して、原因結果の関係にある事態1，事態2を表す。〈原因〉は動作以前に存在する。かつ、事態は必ず已然でなければならない。

他一走进屋里去，他爱人就 高兴地 跑过来了。

（彼が部屋に入るや、彼の妻は喜んで駆けてきた）

- ⑤状語となる形容詞のうち、動詞との組み合わせによって動詞との関係が異なるものがある。（用例は“平静”“刻苦”）

平静→“很平静地说起那件事”（とても落ち着いて）

動作以前の〈経験〉を修飾

→“在平静地过日子”（穏やかに）〈動作過程〉の〈動作〉を修飾

- ⑥〈評価〉を表すものに2種類ある。ひとつは事態発生後、話者（あるいは主体）の心理状態（〈評価1〉と呼ぶ）をいう感情形容詞（用例は“意外”“高兴”“奇怪”“痛苦”）。もうひとつは動作のはじめからおわりまで動作の全過程をみて評価する（〈評価2〉と呼ぶ）形容詞（用例は“详细”“顺利”“巧妙”）。これらは“很”A形になれる。

H論文はM状語を分類する基準を「動作とのアスペクト的關係に求める」（p177）方針でかかっている。従来指摘されなかった言語事実をとりあげていて、本稿でもその言語事実およびV A型に入れない動詞と形容詞の組合わさった状語中心語統合型の分類については、異論をはさむ余地を見いださない。

ただ、本稿では状語中心語統合型の統合意義特徴を分析するにあたり、「動作とのアスペクト的關係＝本稿での分析ポイント①」は、以下の理由によりV A型には入れる動詞と形容詞の組合わさった統合型に限り検討されるべきだと考える。（ちなみにH論文で用例として挙げられた動詞と形容詞のうち、V A型をつくれるものは、M3状語〈賓語〉として分類されたもので“写清楚”

“擦干净” “摆整齐”，本来動作過程を修飾するM2状語になるが“很”をつける（“很详细地说明”）と評価になるとされる“说明详细”である。）

- 1) 単語の意義素が弁別的意義特徴（個別的なアイデンティティを確保）と示差的意義特徴（他の単語との区別）という体系的なものであるように統合型も他にどのような統合型が使えるかということが、統合意義特徴どおしの体系をつくりあげると考えられる。
- 2) 主語と述語との中間に位置する状語は、M1M2M3状語というごくシンプルな修飾の対象の区別が示すように、単純な二項対立による統合型（M2の一部）をつくることがまれである。異なった文法レベルの叙述（ときに陳述）が挟み込まれる位置として、捉え直すほうがよい。
- 3) 言語形式が「終わった事態（已然）、未然」を表すということは、指示された状況に付帯する叙述時点を基準にして前後を問うのであって、現実の発話行為が行われている発話時点を基準にしてその前後を問う（「現実、未来」とでも呼びかえるとよいであろう）のとは別問題である。そこで、評価なども「発話時点において、話し手が状況をどう認知するか」という別の次元の問題として扱い、事態の前後という時間軸からは切り放して捉えた方が、句全体の文法的意義特徴の分析がやりやすくなるはずである。

それではここで【A地V型統合意義特徴I】の存在を裏付ける用例として、まず、“描粗” “写大” “做大”の用例を挙げる。

他很粗地描了几笔。（太く何本か線をひいた……デッサン用動詞）

他粗粗地描了几笔。（雑に何本か線をひいた）

把字大大地写在本子上。（“很大地”は使いにくい）

这孩子长得很快，要图省事儿就把衣服大大地做。

（“很大地”は使いにくい）

“粗”のように語義が物の形状と行動のしかたと二通りある場合，“很”A

地形は必ず、賓語＝生産物格を判断対象として「目的とする物の形状」を表し、AA地形は「行おうとされる動作のあるやりかた」を表す。“他的胳膊练粗了”のように長い年月で自然に生じる形状や意志だけではすぐには獲得できない形状についてはVA型からA地V型への変換はできない。

“大”のように物の形状しか表さない場合（年齢や程度という数値範疇は除外）AA形のみが状語となる。その統合意義特徴は「賓語＝生産物格をどのような形状にするかという動作主の意志を表す」ことにある。意志をわざわざ述べる句は発話時点（陳述レベル）からみれば未然であり、叙述時点（叙述レベル）からみれば、時の指定されていないあるべき事柄（論理叙述の一種）となる。

また、“V长”では“很长地”形と“长长地”形とが“织毛衣”“做袖子”と共起するだけであり、“写字”“切白菜丝”などとは使いにくい。日常生活でその生産物が動作主によって意志的にどのような形状（価値とも言える）を求められやすいかが、A地V型の成立に深くかかわっていることがわかる。

“V细”が反対に多くの動賓統合型とともにA地V型をつくることのできるのも、日常生活の中にある価値観が反映しているためと考えられる。

最後にM3状語に変換する代表的VA型“写清楚”“摆整齐”“擦干净”について検討する。

収集した資料の限りでは、“写清楚”は生産物格を求め、A地V型に変換する場合は補語と賓語（“把”字句でもよい）を必要とする。もともと“清楚地／很清楚地／清清楚楚地写字”という句は補語を欠いた不完全な表現と報告されている。中国語において単独の動詞と単独の名詞とで成り立つ述賓統合型は「動作パターン（第一次格が満たされているだけの事柄）」を表す表現であり、量詞や補語が加わってはじめて、叙述時点や叙述場面を担った出来事を表す表現であることが保証されるといえる。名詞表現のランクに総称名詞・類（名詞）・個別（名詞）があるように、動詞表現にも言語形式の区別によって「叙事A

B C D」(有意志の強弱が基準)のほかに、「事柄・出来事(已然未然)・現実未来」(時との関わりを基準とする。統合型レベル・叙述レベル・陳述レベルというレベル差あり。)のランクがたてられそうである。

有话, 清清楚楚地写出来! (未然→未来) (叙事B)

把这件事清楚地写一下! (未然→未来) (叙事B)

黑板上很清楚地写着几个字。(已然→现实)(叙事D) c.f H論文より

……当体格が重ねられた異相表現

動作の異相においてはじめて成立する生産物の状態をA地V型で述べる場合、
①異相に存在するものについて述べていることを明らかにする必要があること、
②それが動作者の意志によって努力して獲得される状態であること、以上2点が言語形式(文脈)ではっきり表現される必要があると考えられる。

“摆整齐”では、動作の平相から存在している対象について、その位置をずらせて異相の状態を生み出すことを表す。

在桌子上很整齐地/整整齐齐地摆了很多杯子。(已然→现实)(叙事A)

屋子里很整齐地摆着十几张桌子。(已然→现实)(叙事D) c.f H論文より

……当体格が重ねられた異相表現

“写清楚”と“摆整齐”のA地V型を比べてみると、賓語の担う格が生産物であるか対象であるかの違いが、叙事Aの形式の有無および時レベルの違いとして現れている。生産物と対象の区別に関わりない共通点としては叙事D(いわゆる存現文)では“很”A形を状語として選んでいることであり、このことは【A地V型統合意義特徴I】の存在を裏付けていると言える。

“擦干净”は、賓語の担う格が対象である点で“摆整齐”と同様であるが、対象に位置移動の生じない点に違いがある。したがって、叙事Dが成立しない。

把桌子很干净地/干干净净地擦了一遍。(已然→现实)(叙事A)

要干干净净地擦! (未然→未来)(叙事B)

このように同じM3状語であっても担う格が異なれば、言語形式も異なって

ることがわかる。この観点からさらに資料を作成すれば、格ごとの文法的特徴をより詳しく調べられるが、稿を改めて論じることにする。

4. 6 【VA分類表】の用例の検討(2) — V愣

ここで検討対象とする例文は、まず次の2例である。(p42の再録)

他愣愣地看着她。 (着)

她愣愣地听着音乐。 (着)

“愣愣的”をV得A型に入れるには、叙事B(“把”)C(“被”)の句を必要とする。それは動作主格と形容詞の経験者格(他人の動作行為によってあけにとられる)を担う人物が別人であることを示す必要があるためであると前稿(p47)で考察した。

ところが“看”“听”という行為は動作主以外の人間になんらかの影響を及ぼせるという保証がない。たとえ対象として人間を選んでいても、動詞の意義素のなかの意義特徴には他のものへの影響を規定するものがなく、状況のなかで見つめられて恥ずかしくなったという事態がおきたとしても、非常に随時的な事態として接続形式(“使”“让”など)によって二つの現象素の結びつきを表すことになる。したがって“看”“听”は“愣愣”とV得A型内で共起することができない。

一方、A地V型に次の統合意義特徴があることは、M1状語についての指摘を待つまでもなく明かである。「A地V型において形容詞が感情形容詞である場合、動詞の動作主格と形容詞の経験者格は主語の位置にある同一の形式によって担われる。」このことを裏付ける言語事実として“被笑得愣愣的”と“愣愣地笑了”では、“笑”の語義の優先順位がことなることが挙げられる。前者は叙事Cの形式で動作主は隠れている。そして前者の“笑”は「他人をあざ笑う」後者の“笑”は「微笑んでいる」笑い方を表す。

次に上記の文が成立するのに“了”“着”が必須の要素とされるのはなぜか？

感情形容詞の表す語義がもともと虚ろい易いうえに、ある動作行為には常にある感情が伴うという程、出来事と感情との組み合わせを一般化することはできない。したがって、感情感覚の描写が平行して行われる動作行為には「一回きりの出来事」であることを示す形式が求められるのではないだろうか？アスペクト助詞をつけるということは、動作行為パターンとしての事柄から、事点をもつ一回きりの出来事（叙述時点はまだ定まっていない）へと現象素が変化することである。感覚・感情形容詞について調べた【パターン表Ⅲ】の例文でも、アスペクト助詞が付いていない場合は、①補語②量詞③場所や時間を表す介詞構造が必ずどれか含まれている。これらは個別の出来事を表し、具体化をもたらす詳述のための形式であり、偶然用いられたものとは考えられない。

4. 7 【VA分類表】の用例の検討（3）－V乱

原形の「打乱」は、表の中で唯一抽象的な「掻き乱される」という意味を表す。（“我的计划被突如其来事情打乱了。”）つまり、異相には具体的かつ視覚でとらえられるような現象の乱れが存在しない。乱れている描写対象・判断対象がなければ、V得A型も存在できない。

A地V型での用例は、具体的な「雨粒」が一定の場所に「乱れ打ちつける」という、叙事Dの変形＝無意志の移動物体（当体格）と場所の位置が交換されている。

4. 8 【VA分類表】の用例の検討（4）－V満

前稿で、A地V型にもV得A型にも変換できないM1パターンとして、次の3例について検討した。（**はVA型の位置を表す）

烤满了	他的炉台上**了白薯。
泼满了	刷地前他们先在地上**了水，然后再用笤帚扫。
流满了	暖气管子漏了，地上**了水。

本項で検討対象にする、A地V型にはなるがV得A型には変換できないVA型の用例は次のようなものである。(P42の再録)

坛子里腌满了咸鸡蛋。

V得A型になれない原因は、前稿3例と同じく①動詞に場所を移動させるという他動性がない②置かれたもの(動作の対象)をその動作を経て習慣的に満たすスペースが想定できない。の2点にあるといえる。ただし、②については漬物のビンといういかにも「塩漬けにする」行為に欠かせない道具またはスペースがあるように思えるのだが、“腌”の求める格が生産物格しかも極めて具体的な特徴をもつ行為によって生み出されることが影響していると考えられる。

满满地腌了一缸咸菜。 (一缸)

このA地V型は叙述Aであり、“满”が判断・描写するスペースは“一缸”という生産物をいれる容器による「借用量詞」が担っている。そして“满满地”は、A地V型におけるAA形の典型的用法「目的とする状態(ここでは、いっぱいになること)を生み出すために努力する意志」を表しているといえる。

M1パターンとの比較例をここで付け加えておく。【VA型分類表】の“花”の項目の用例“花花地抹了几道绕。”“花花地染了很多料子。”では、“花”は「色とりどり、カラフル」というこのもしい様態を描写している。もちろん叙事Cの形式でV得A型にも変換できる。しかし、“晒花”(日に焼けてまだらになる)“洗花”(現像がむらになっている)というマイナス価値であることがはっきりしているVA型の場合は、V得A型に変換できないことはもちろん、A地V型にも変換できない。これは、一つの形容詞の中にプラス価値とマイナス価値の語義があった場合、どの統合型がどの語義を選択できるかという多義構造と文法構造との相互関係を示す例とみなすことができる。すなわち、動作主の意志は通常プラス価値の状態を目指して発揮されることを裏付けている用例といえる。

4. 9 A地V型×・V得A型○の変換パターン

－【VA型分類表】のVA型①とVA型②の比較

本項ではVA型とV得A型にはなれるが、A地V型にはなれない動詞と形容詞の組み合わせについて検討を加える。

まず、【VA型分類表】から、同一の形容詞に対してA地V型×・V得A型○の変換パターン（VA型①）をつくる動詞と、A地V型○・V得A型○の変換パターン（VA型②）をつくる動詞とを比較しながら、A地V型の統合意義特徴について考察を進める。

1) “大”といっしょにVA型①をつくる動詞は賓語が対象格を担うが、VA型②をつくる動詞は生産物格を担う。動作行為の途中でもものの形状を変化させうるのは生産物をつくりあげていく過程にしかない。変様だけは程度の高さと関わる語義をもっている。

2) “好”のVA型①での“訂得很好”は主題に対象格「本」を置いて、「装丁がよくできた」という語義を表す。それに対しVA型“訂好”は「ちゃんと予約する」意味になる。動詞の語義が変化するのは、「V得A型の形容詞は具体的な形状の判断・描写を第一義とする」文法的意義特徴に呼応している。

3) “糊涂”はいかなる場面でもプラス価値を表すことはないといえる。VA型①では「頭が混乱してわけがわからなくなっている」という心理を表し、その感覚心理の経験者は介詞“把”で「V得」に前置されて、動作主と分離される。収集した資料のなかではこのグループに属する動詞はみな弱い使役（人に影響を与える行為）を表し、“糊涂”の語義も“聪明”の反義語にほぼ相当する。“很”A形とAA形の違いは朱德熙が指摘したとおり、「述語と補語の位置ではAA形のほうが強調された意味を表す」。

孩子把我闹得胡里糊涂的／很糊涂。

儿子把爸爸气得胡里糊涂的／很糊涂。

他被支使得胡里胡涂／？很胡涂，不知该听谁的好。

それに対し、VA型②におけるA地V型では、“很”A形になる用例が見つからず、原形または重畳形だけが状語になる（ものとみなせる）。原論文の指摘のとおり、原形は〈原因〉となる心理「うっかりして～」を表すと考えられる。重畳形については〈動作過程〉＝流相の様子を描写するとはみなせない。むしろ、ひとつの出来事と平行する動作者の心理「いいかげんな気持ちでいて～の出来事がおきた」を描写すると解釈したい。形容詞が要求する経験者格は両者ともに主語（動作主格も担っている）に担わせている。

他胡里胡涂地考上了重点大学。（入学試験をバカにしたような表現になる）

※胡涂地考上了重点大学。（うっかりした状態では絶対合格しない）

他胡里胡涂地忙了一阵，没有收获。

※胡涂地忙了一阵，（うっかり忙しくなることはありそうにない）

他胡里胡涂地烧掉了一张存折。（いい加減な気持ちで焼いてしまった）

他胡涂地烧掉了一张存折。（うっかりしていたために消失した）

cf.（发烧）烧得很胡涂。（高热がでたので～）

他总是胡里胡涂地问老师问题。（いい加減な気持ちで適当に質問する）

ところが、VA②型におけるV得A型では、“胡涂”の語義が心理感覚から変化して「わけがわからなくなるほど混乱した状態である」という描写形容詞になり、“清楚”の反義語にほぼ相当するようになる。ここでも、「V得A型内の形容詞は具体的な描写を行う語義を優先して選択する」という統合意義特徴が発揮されている。句型も主題として動詞の対象格を前置する叙事Dが常用されるが、形容詞の描写対象格は「V得」が担っている。

考试考得很胡涂（結果が五里五里霧中）／胡里胡涂的（訳がわからない）。

忙得胡里胡涂／？很胡涂，不知该干哪个好。

（いそがしさが混乱を極めている）

他问老师问题总是问得胡里胡涂的／很胡涂。（聞き方が混乱している）

电影看得胡里胡涂的／很胡涂。 (見方が混乱していい加減である)

そこで、形容詞が感覚感情および心理を表す場合、以上のA地V型の用例から次の統合意義特徴が見いだせる。

【A地V型統合意義特徴Ⅱ】

感覚感情形容詞が原形である場合、動詞の動作主格と形容詞の経験者格とが同一の人物を指示する名詞で担われることによって、形容詞と名詞の表示する現象枠と動詞と名詞の表示する現象枠とが連結されて、一つの状況（ひとつの叙述時点とひとつの叙述地点で規定される）をつくる。形容詞の現象枠から動詞の現象枠へと事柄が一貫してつなげられていくに伴い、叙述時点に幅が生じる。この連結方式は〈因果関係のスキーマ〉に比定できる。

感覚感情形容詞が“很”A形になり、経験者格・原因格がふさわしい名詞によって担われたことを、第一人称者から肯定されねばならなくなった場合、経験者格は動詞の動作主格と一致し、形容詞が表示する現象枠と動詞が表示する現象枠とは同じ状況のなかで重複・並存し、一つの状況をつくる。原因格は動詞が表示する現象枠の事柄さらには状況の一部としての出来事すべてが、第一人称者（通常話し手と一致する）によって感覚感情を引き起こす原因として認知され、評価される。（日本語では「～にも」という訳がつけられる）

感覚感情形容詞が重畳形になり、経験者の様子が描写されねばならなくなった場合、描写される対象は動作主を中心とする出来事と同じ状況のなかで並存している、経験者の感覚感情心理である。並存できるかどうかは、まず動作主がつくる出来事が通常その感覚感情心理を伴いがちだという社会通念を基準として決定されている。

【パターン表Ⅲ】の重畳形だけが使われたり、使われなかったりする用例でも以上のことを確認できる。

4) “机灵”のVA型①では、“学得机灵”の動作主格も評価対象格も主語(人間)が担うが、VA型②の“机灵地变了个问法”では動作主格は主語、

“机灵”の評価対象格は句全体“他变了个问法”であり、H論文のいうところの〈評価2〉の用法になる。

5) “近”がどこどここの隔たりを判断するか、つまりどここの距離を判断対象にするのかによって形式が異なってくる。“拿”という動作は移動そのものを表さないが、手にした対象物を移動させることはできるので、VA型①では“把”で対象格を取り出すことによって“拿得很近／近近的”の統合型が成立する。スケールをあてられている距離は、持っている品物から叙述地点までの距離である。この距離自体は動詞の現象素の中に内在しているものではなく、意義特徴として意義素に含まれているものでもない。あくまでも、叙述レベルではじめてとりあげることのできるスケールである。

それに対し、VA型②の“凑”“靠”は意義素自体が「ある人間にむけて近づく、ある地点へ向けて近づく」という移動を表し、“很近地／近近地～到”の形式で使われる。つまり移動のゴール格（純粋な第一次格ではない）を満たす形式を要求する。

“走”“挨”にはゴール格が含まれていない。したがって叙述レベルで複数の事物を設定して、その距離をはかる表現になり、“两个人很近地／近近地走在一起。”などの形式で使われる。

一方、反義語“远”は「不定地点からゴールなしで遠ざかる距離」を表せるので、抽象的な“看”“说”ともVA型、A地V型、V得A型すべてで共起できる。また、移動を表す動詞“走开了”“跑开了”“躲开了”などとAA地形（※“很”A地形は使えない）で組み合わせ、**「遠くへ遠くへ」**という動作主の意志を表す。例えば、“站”“坐”など実際の移動は表さないが、ある地点に固着する意義特徴をもつ動詞について、次の表現がなりたつこともそのことを裏付けている。“远远地站着，不敢靠近。”

5 感覚感情形容詞におけるA地V型○・V得A型×の変換パターン
— 【パターン表Ⅲ】の用例の検討

本項で扱う例文は動詞と形容詞がVA型をつくらない組み合わせである。

【パターン表Ⅲ】のA地V型○：V得A型×の組み合わせ

()内は意見不一致の用例：数字はH論文の分類番号（p45～p46）

痛快地答应了⑥；（痛痛快快地上课去了）⑤

快乐地笑了④；

快活地谈着⑤；（快快活活地上课去了）⑤

高兴地上课去了④

他的一生伤心地结束了⑥

孤独地坐在～⑤；孤独地睡在～⑤

孤单地睡在～⑤

これらはH論文における分類のうち④<原因>（已然→現実）⑤<動作過程>（已然の一種とみなす；しかしアスペクト内の流相ではなく、「ちょうど叙述時点のその時に」という進行状況として捉える）⑥<評価1>（現実に対して感情形容詞を用いて下す評価）にあてはめて解釈できると考える。

なお、AA形の用法で年配者と若者の語感が食い違っていることは興味深く、一般的にみて若い人の方が用法の許容範囲が広いという結果がでている。これは語義の変化によるものというよりは、状語中心語統合型の統合意義特徴が積極的に機能しているためとみてよいであろう。つまり「経験者＝動作者の叙述時点における心理状態をヴィヴィッドに描写する」という統合意義特徴が徐々に「よく起きる状況」について適用されはじめていると考えたい。

また、感情形容詞には他の形容詞にはない文法的な特徴が少なくとも、2つある。それは、ひとつは文脈の中で経験者格を求めるのか、原因格を求めるの

かという判定が必要なことである。前者ならば⑤，後者ならば⑥というように状語機能の分類が変化してくる。もうひとつは，視覚で捉えられる感情なのか（格としては原因格または描写対象格を求めることになる），経験者にしかわからない感情なのかという区別である。連体修飾統合型や使役統合型における用法に変化を生じさせる特徴であるが，本稿では論考の対象にはしない。

6 V A型へ変換できないA地V型・V得A型を通しての統合型 意味分析－【パターン表ⅡB】の用例の検討

【パターン表ⅡB】はV A型にはならないが，V得A型とA地V型の双方，またはどちらか一方にはなれる動詞と形容詞の組み合わせについての調査である。変換の3つの可能性を端的に示すために【表2】をつくり，個々の形容詞のうしろに「双方=s，V得A型のみ=y，A地V型のみ=j」のマークをつけた。複数のマークがついているものは組合わさる動詞の違いによって変換の可能性も違ってきた場合の表記である。V得A型の意味はすべてが様態を表すとみなしてよく，“野草长得旺”だけが，極めて特殊な文脈に支えられて，可能を表す場合もあると報告されている。

また，【パターン表ⅡB】の中にある形容詞は語義的には3種類の類型に別れることが見い出されたので，その3種類の語義を【表2】を縦割りにして示した。なお，これらの形容詞は組合わせる動詞を変えれば，原則として皆V A型にもはいるもの－【パターン表Ⅰ】【パターン表ⅡA】【パターン表Ⅲ】でとりあげたもの－ばかりである。ただし，【パターン表ⅡB】での語義のほとんどがそれらと異なっている（感情形容詞“寂寞”“高兴”を除く）ことから，A地V型の統合意義特徴について更に考察を深めることができる。

【表2】【パターン表ⅡB】で扱った形容詞の語義分類

語義	
人間を形容する意味	笨 s Y, 聪明 s Y j, 端正 Y j, 高兴 s, 寂寞 s, 苦 s, 细致 Y,
抽象的派生的意味	长 s, 粗 s, 淡 s, 尖锐 Y, 紧 s, 高 s, 迷糊 s (重畳形のみ), 甜 s, 仔细 s
程度を形容する意味	惨 s, 差 Y, 彻底 s, 充分 s, 光 Y, 猛 Y, 旺 Y, 详细 s,

(注－アンダーラインの形容詞は陆俭明が「V A了」で使えるとみなしたものであるが、本稿のインフォーマントの語感では使えなかった)

6. 1 人間を形容する形容詞とA地V型

特徴のはっきりした用法に，“生得”と組合わさって「生まれつき～である」という恒常的性質を表す“笨，聪明，端正，细致”の用法がある。この意味ではA地V型をつくることができない。【A地V型統合意義特徴Ⅱ】で述べた、「一つの状況(ひとつの叙述時点とひとつの叙述地点で規定される)をつくる」(ただしこの特徴は感覚感情形容詞の分析によって導かれたものであるが)という統合意義特徴が、異なる種類の形容詞についても存在するために、恒常的性質がA地V型では表現できないのではないかと考えられる。

この仮説を検証するために“笨”“聪明”がs (V得A型もA地V型もつくれる動詞との組み合わせ)の場合の用例を調べてみる。組合わさる動詞は各々“割”と“说”という動作動詞であるが、2例とも共通の特徴が見受けられる。①V得A型では動作主の能力を述べることによって「動作のやり方への評価(例えば馬鹿のやりかた，賢い人間のやりかた)」を表す。②A地V型では、ある動作を行う動作主がどう見えるかということを通して「ある状況のもとでの動作行為そのものへの評価(例えば，愚かにも～，賢明にも～)」を表す。

次に“高兴，寂寞，苦”(すべてs)の動詞との組み合わせにおけるV得A

型とA地V型とを比較してみる。A地V型の中の区別については基本的に感情形容詞の用法を調査した【パターン表Ⅲ】と同じ特徴がみられるが、改めてV得A型と比較すると次のような分業した表現を表すと考えられる。

①V得A型では動作主＝経験者の心にその行為をきっかけに生じた感情（行為の「V得」を原因格にとる）がどんなものであったかを表す。②A地V型では動作主＝経験者の動作行為の前・最中にどんな感情がにじみでているかという、ある状況における「感情の外見的発露」を表す。したがって、社会習慣で定められた、ある感情を引き起こし易い動作行為という語義上の共起制限からはみ出していく傾向が強い。例えば“高兴”は“答应，上课，吸（抽烟）”などとはA地V型の統合型の中でのみ組合わさる。

6. 2 抽象的派生的意味または程度を形容する形容詞とA地V型

動作行為そのものへの評価を表す用法や、目的意識を表す用法がないので、j（＝V得A型のみ成立）分類の組み合わせが見あたらない。

V得A型のみ成立のY分類にはいるものは、“声音响得尖锐”“雨下得紧”“政策落实得差”“脸洗得光”“雨下得猛”“水流得旺”“野草长得旺”であるが、これらはV A型に固定されるほどでないまでも、極めて特殊な「主語の位置に置かれた名詞の語義的意義特徴」としてピックアップされる（叙事Cの文型で）ほどの、注目度の高い行為とその結果であるといえる。A地V型の持つ一時的状況を表すという統合意義特徴とは共起しにくいのかも知れない。

双方成立のSについては、これまで述べてきた【A地V型統合意義特徴I II】にもとづいてその区別を解釈できるので、ここでは触れない。

7 おわりに

資料として整理した用例を分析しながら論をすすめてきたため、【A地V型

統合意義特徴ⅠⅡ】の内容をあらこちらで繰り返して述べるようになった。論文の構成としては散漫なものになり、かつ、用いた文法概念も①認知科学系統の真理的意味（現象素・現象枠・状況など）と認知的意味②陳述文法系統の文法的階層（4レベル）の2系統を関連づけようとしたので、同じことを角度をかえてのべた箇所もある。しかし、筆者自身、完全な演繹的展開をできる程、全体の文法体系を完成できてはいないこと、また完全に帰納的に文法体系を導きだせるほどの量の言語資料を確保していないため、仮説をたてては具体例にあたる作業を繰り返してきた。今後さらに用例を増やして系統だてた論をたてていきたい。

2・3 補記 — 【パターン表ⅡA・B】の構成

1) インフォーマントの内省報告を示すマーク：

◎＝統合型だけでもすぐ理解でき、かつ日常よく使う。

○＝特別な文脈でなら使える。（その統合型が使える例文を示す。）

△＝インフォーマント自身は使わないが、方言または世代の違いで使う人もいる。

×＝文法的な間違いであり、使えない。

インフォーマントの意見が、△×と分かれた場合は×とし、△○と分かれた場合は相互に再確認を取ったあとで、○としてマークをつけた。

【その他のマーク】

●＝採録した例文の統合型

*＝重畳型にならない形容詞；下記の論文のデータに基づく。ただし、インフォーマントの語感と異なる部分もあり、その箇所はあとで指摘する。

李大忠《不能重叠的双音节形容词》1984 语法研究合探索，北京大学出版社

- 2) 【パターン表Ⅰ】では調査しなかった可能補語“V不A”についての調査が加えてある。それに伴い，“V得A”の形式が可能の意味を表す場合を①，可能以外の意味を表す場合を②として区別した。
- 3) 形容詞と動詞の組み合わせがVA型になれるものを【パターン表ⅡA】に集め，VA型になれないものを【パターン表ⅡB】に集めた。
- 4) 形容詞の後ろに#印がついているものは【パターン表Ⅰ】では検討対象にはならなかった（《汉语动词—结果补语搭配词典》に用例がなかった）が，つぎの論文でとりあげられたVA型である。

陆俭明 1990《“VA了”述补结构语义分析》汉语学习第一期 p1-6

- 5) 後ろに☆印がついている形容詞は【パターン表ⅡA】にも【パターン表ⅡB】にもあるものである。つまり，動詞との組合わさり方によってVA型になれたり，なれなかったりする形容詞である。